

和仏法律学校講義録

著者	杉本 貞治郎, 栗津 ?亮, 松岡 義正, 金井 延, 下村 宏, 山口 弘一
出版者	和佛法律學校
巻	2-6
ページ	1-53
発行年	1900-04-25
URL	http://hdl.handle.net/10114/5109

和佛法律學校

講義錄

第貳部

第六號

商法總則	（自五四至五九）	法學士杉本貞治郎
商法保險	（自六二至六七）	法學士粟津清亮
破產法	（自八五至一〇八）	法學士松岡義正
經濟學總論	（自四一至五五）	法學博士金井延
財政學	（自七三至一〇四）	法學士下村宏
國際私法	（自五三至五六）	山口弘一

090
1900
2-1-6

スヘキ例外ノ場合ハ其場所ニ於テ之ヲ定ムト規定シ第二百十條ハ株式會社定
款ノ變更ハ登記ヲ經ルニ非サレハ效力ヲ生セサルコトヲ規定セリ
(ニ)錯誤ノ登記ハ效力ヲ生セサルヲ原則トス登記ハ公示方法ナルヲ以テ或法定
關係ノ存在アルヲ要件トス登記ニ由リテ存在セサル法律關係ヲ存在セシムル
コト能ハサルト同時ニ又存在スル法律關係ヲ消滅セシムルコト能ハス故ニ錯
誤ノ登記ハ其錯誤ノ部分ニ付テハ法律ニ別段ノ定ナキトキハ何等ノ效力ヲモ
生スルコトナシ獨逸ノ不動産登記法ニ於テハ登記簿ノ登錄ハ絕對ニ法律關係
ヲ定ムル效力アリト爲スヲ以テ錯誤ノ登記モ之ヲ訂正セサル限りハ效力アリ
然レトモ商業登記ニ關シテハ亦公示主義ヲ採用セリ
錯誤ニ因ル登記ハ效力ヲ生スルコト無シト雖モ錯誤ノ登記ニ因リテ第三者ニ
損害ヲ與フルコトナキニ非ス此場合ニ於テハ錯誤ヲ爲シタル者ハ損害賠償ノ
責ニ任セサルヘカラス但シ登記官吏ノ錯誤ニ付テハ法令ノ規定アルニ非サレ
ハ損害賠償ヲ請求スルノ途ナシ獨逸不動産登記法ニ於テハ登記官吏ノ過失ニ
付テハ國家カ其責ニ任スルコトヲ規定セリ

(三)登記ト公告トノ關係 登記シタル事項ハ裁判所ニ於テ遲滞ナク之ヲ公告セサルヘカラス而シテ登記事項ハ之ヲ公告スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス是ニ於テ若シ登記ト公告ト矛盾セル場合ニハ如何ナル關係ヲ生スヘキヤ(五)登記ニ錯誤アリテ公告カ却テ真正ナル場合ニ於テハ登記ハ效力ナキヲ以テ公告ヲ以テ第三者ニ對抗スルコト能ハサルハ無論ナリ但シ第三者ニシテ公告ヲ眞實ナリト信シテ取引セルトキハ其善意ニ非サルカ爲メニ事實ヲ以テ之ニ對抗スルコトヲ得ルノミ(六)公告ニ錯誤アル場合ニ於テハ之ニ反シテ其登記ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘシ第一四條夫レ公告ハ公示方法ノ終局ニシテ公告ニ由リテ第三者ニ對抗スル效力ヲ生スルナリト雖モ登記ヲ爲ス者ヨリ觀ルトキハ已ニ相當ノ手續ヲ盡シテ登記ヲ申請セルモノナリ然ルニ裁判所ノ爲シタル公告ニ錯誤アリタルカ爲メ登記ノ效力ヲ失フニ至リテハ是レ登記官吏ノ責任ヲモ負擔スルモノト謂フヘシ由來登記公告ノ制ハ第三者ヲ保護スル主意ニ出ツルト雖モ第三者ノ爲メニ登記義務者ヲ犧牲ニスルハ甚ク酷ナルヲ以テ此規定アルナリ是レ舊商法ニハ缺クル所ナリ

第四章 營業、營業所、商號及ヒ商標

第一 營業

營業ハ主觀的ニ之ヲ言ヘハ商人ノ商業上ノ動キナリ客觀的ニ之ヲ觀レハ商人ノ商業上ノ設備ヲ包括シタル名稱ナリ商業上ノ設備ニハ有體物件アリ債權アリ債務アリ其他種種ナル商業上ノ關係ヲ包含スヘシ營業ニ屬スル財産ハ營業主人ノ財産ノ一部ニシテ營業上ノ權利義務ハ勿論主人ノ權利義務ナリト雖モ通常營業資本ハ主人ノ財産中ヨリ分別セラレ營業上ノ收入支出ハ他ノ收支計算ヨリ分別シテ計算セラレ破産ノ場合ニ於テハ一營業ノ債權者ハ其營業ニ屬スル財産ニ對シテ優先權ヲ有シ又營業ハ特別ノ住所營業所ヲ有シ此住所ニ依リテ裁判管轄ヲ定メ義務ノ履行地ヲ定メ又特別ノ名商號ヲ有シ其名ニ於テ權利ヲ有シ義務ヲ負フヲ以テ恰モ獨立セル一財團人格ナルカ如キ觀アリ

一 第二 營業所

商人ノ營業ノ本據ヲ營業所ト謂フ營業所ハ必スシモ商人ノ住所ト一致スルモ

ニ非ス商人ノ商業ヲ營業場所ニシテ通常店舗、金庫、倉庫、工場等ノ在所ナリ
一營業ニシテ數多ノ營業所アルモノアリ數多ノ營業所ノ相互間ノ關係ニシテ
或ハ主從ノ關係アルモノアリ主タルモノヲ本店ト謂ヒ、從タルモノヲ支店ト謂
フ支店ニ似テ非ナルモノアリ出張所、代理店等ト稱スルモノ是ナリ支店ト出張
所又ハ代理店トノ區別ハ支店ハ其本店トノ關係ニ於テハ全然獨立シタル營業
所ニ非スト雖モ外部ニ對シテハ本店ト等シク自己ノ名ヲ以テ獨立シテ營業取
引ヲ爲スコトヲ得出張所又ハ代理店ニ於テハ之ニ反シテ單ニ本店ノ名ニ於テ
其委任セラレタル行爲ヲ爲スコトヲ得ルノミ故ニ支店ハ法律上一箇ノ營業所
ナリト雖モ出張所又ハ代理店ハ事實上營業ノ場所タルニ止マリ法律上營業所
ハ本店アルノミ支店ハ本店ト異ナル商號ヲ有スルコトヲ得ヘシト雖モ出張所
又ハ代理店ハ特別ニ商號ヲ有スルコトナシ支店ハ訴訟ノ當事者ト爲ルコトヲ
得ト雖モ出張所又ハ代理店ハ訴訟ノ當事者ト爲ルコトナシ又本店ノ所在地ニ
於テ登記スヘキ事項ハ支店所在地ニ於テモ亦登記スヘキヲ原則トス(第一〇條)
之ニ反シテ代理店又ハ出張所所在地ニ於テハ登記スルコトヲ要セザルナリ

第三 商號

商號ハ商人ノ營業上ノ名ナリ商人ハ商業取引上ニ於テ常ニ其本名ヲ稱スルハ
往往不便ナルカ故ニ自ラ一種ノ俗稱ヲ用フルニ至ル是レ古今東西ニ通スル商
習慣ナルカ如シ此俗稱ヲ商號ト云フ從來屋號ト稱セル所ナリ
商人ハ各其商業上ニ於テ一定ノ信用ヲ有ス此信用ノ目標ハ通常其商號ニ在リ
故ニ商人ノ信用ヲ保護センカ爲メニハ此商號ヲ保護セザルヘカラス是ニ於テ
各國商法ニ商號ニ關スル規定アルナリ商號ニ關スル規定ハ第一商號選擇ノ自
由第二商號ノ真誠第三商號ノ專用第四商號ノ登記第五商號ノ讓渡ニ關スル規
定等ニナリ

一 商號選擇ノ自由 商號ハ商人ノ商取引上ノ稱呼ナルカ故ニ苟モ以テ他人
ノ稱呼ト區別スルコトヲ得ルニ於テハ如何ナル名稱ヲ用フルモ自由ナルヲ原
則トス商法第十六條ニ「商人ハ其氏名其他ノ名稱ヲ以テ商號ト爲スコトヲ得」
ト規定セリ

二 商號ノ真誠 商號ハ商人ノ商業上ノ符號ニ過キサルヲ以テ如何ナル名稱

ヲ選擇スルモ自由ナルヲ原則トスト雖モ商號ハ又信用ノ目標タルモノナルヲ以テ世人ヲ誤ラシムル如キ名稱ヲ用フルハ甚タ弊害アリ是ニ於テ一定ノ範圍ニ於テハ商號ノ異議ヲ必要トスルナリ商法第十七條ニ曰ク「會社ノ商號中ニハ其種類ニ從ヒ合名會社合資會社株式會社又ハ株式合資會社ナル文字ヲ用ユルコトヲ要ス」ト是レ商事會社ハ各其組織ニ隨テ信用ヲ異ニスルモノナルヲ以テ其商號ニハ必ス其組織ヲ明示スルコトヲ要スト規定セルナリ又各商事會社カ其組織ヲ明示スルコトヲ要スルト同ク會社ニ非サル商人ニシテ會社組織ナルコトヲ表示スル商號ヲ選フコトヲ得ス是レ商法第十八條ニ會社ニ非スシテ商號中ニ會社タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用フルコトヲ得ス會社ノ營業ヲ讓受ケタルトキト雖モ亦同シト規定シ此規定ニ違反シタル者ヲ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處スル所以ナリ(第一八條第二項)獨逸商法ニ於テハ此他尙ホ會社ニ非タル商人ハ其商號ニ必ス其氏名ヲ用フルコトヲ命ジ又營業ノ種類若クハ範圍又ハ營業主人ノ關係ヲ誤ラシムヘキ文字ヲ附加スルコトヲ禁シ且ツ此禁制ノ趣意ヲ貫徹センカ爲メニ營業ト分離シテ商號ノミヲ讓渡スコトヲ禁シタリ(獨逸

商第一八條第二三條

三 商號ノ專用 商號ハ信用ノ目標ナルカ故ニ同業者タル各商人ノ商號ハ識別セラルルコトヲ要ス特ニ他人ノ信用ヲ盜用センカ爲メニ他ノ商號ト同様ナル商號ヲ擇ミ又ハ他ノ商號ト類似ノ商號ヲ用フルカ如キハ所謂不正ノ競爭ノ目的ヲ以テ同一又ハ類似ノ商號ヲ使用スルモノナルヲ以テ之ヲ禁セサルヘカラス即チ不正ナル商號ノ使用ヲ止ムヘキコトヲ請求スル權利ヲ認メタリ(第二三條)

然レトモ實際ニ於テハ果シテ不正ノ目的ヲ以テ他ト同一又ハ類似ノ商號ヲ使用スルモノナルヤ否ヤハ事實ヲ證明スルコト甚タ難シ故ニ法律ハ之ニ一種ノ推定ヲ下セリ即チ「同市町村內ニ於テ同一ノ營業ノ爲メニ他人ノ登記シタル商號ヲ使用スル者ハ不正ノ競爭ノ目的ヲ以テ之ヲ使用スルモノト推定ス」ト同條第二項此推定ハ反對ノ證據ヲ以テ對抗スルコトヲ得ルハ無論ナリ此推定ハ同一ノ營業ノ爲メニ同一ノ市町村內ニ於テ商號ヲ使用スル場合ニ限ルモ不正ノ競爭ノ目的ヲ以テ使用スル場合ニハ其區域ヲ限ラサルナリ故ニ苟モ商法ノ施

行區域内ニ在ルトキハ商法第二十條第一項ノ請求權ヲ行使スルコトヲ得ルナリ或立法主義ニテハ商號ハ同一ノ營業ニ關シテハ一定ノ區域内ニ於テハ全然他人ノ使用ヲ禁スルモノアリト雖モ我商法ニ於テハ此主義ヲ採ラス不正ノ競爭ノ目的ヲ以テ使用スルニ非サレハ同一ノ商號ヲ使用スルコトヲ得ルヲ原則トス但シ同市町村内ニ在リテハ不正ノ競爭ノ目的ニ由ルモノト推定セラルルノミ故ニ我商法ニ於テハ商號ニハ真誠ナル専用權ヲ認メス唯第十九條ノ規定ニヨリ他人ノ登記シタル商號ハ同市町村内ニ於テ同一營業ノ爲メニ登記スルコトヲ得サシムルノミナリ之ニ反シテ不正ノ競爭ノ目的ヲ以テ他人ノ登記シタル商號ヲ使用スルトキハ何處ニ於テ之ヲ使用スルモ登記シタル商號所有者ヨリ其使用ノ禁止ヲ請求スルコトヲ得ルナリ

四 商號ノ登記 商法ハ商人ノ信用ヲ保護スルカ爲メ商號ノ使用ニ關シテ一定ノ制限ヲ設ケテ正當ナル商號使用ヲ保護ス此保護ヲ受クントスル者ハ其商號ヲ一般ニ公知セシムルコトヲ要ス即チ商號登記ノ制アリ
商號專用權ハ此登記ニ因リテ始メテ發生スルナリ他人ノ同一商號ノ登記ヲ排

カ世間並至當ナリト認メラルルトキニハ會社ハ保險料ノ不確定ヲ口實トシテ契約無效ヲ主張スルヲ得ス何トナレハ該危險ノ記載カ本社ヘ到着セル場合ニハ本社ハ必ス其至當ナルヲ嘉シテ爾ク定ムヘカリシト信スルコトヲ得レハナリ

(二) 契約繼續ノ場合 保險契約ノ期間満了シ而シテ契約者ハ繼續ノ申込ヲ爲セ保險者ハ之ヲ承諾シタルモ未タ保險料額ヲ記載シタル證券ヲ發スル前ニ事故發生シタル如キ場合ニハ保險料額ハ略セラレタルモノニシテ契約有效ナリ
(三) 保險料額ヲ後ニ定ムルト約シタル場合 例ヘハ貨物ヲ未タ船ニ積込マサル前ニ契約ヲ結ビ保險料額及ヒ保險金額ハ積荷ヲ了ヘ出帆ノ時日ノ確定シタルトキニ定メント約スル場合ノ如キハ未タ保險料確定セサルモ該契約ハ有效ニシテ隨テ保險契約者後ニ定メラレタル保險料ヲ支拂フノ義務アリトス
保險料ノ拂込ニ付テ一言諸君ノ注意ヲ乞フヘキコトアリ他ナシ保險料ハ保險契約者カ保險者又ハ其代理者ノ營業所ニ就テ支拂フノ義務アルコトナリ是レ頗ル略易キ道理ナレトモ我邦ニ於テハ概シテ保險者カ保險契約者ニ就テ之ヲ

請求スルヲ以テ習慣ト爲スカ故ニ時ニ爭論ノ發生スルヲ免レス例ヘハ正當拂
込期日ニ保險者ノ代理者カ契約者ニ就テ保險料ノ請求ヲ爲サス空ヅク時日ヲ
經過スル間ニ事故發生シタリトセヨ保險者ハ保險料ノ不拂ヲ以テ契約無効ヲ
宣言シ契約者ハ從來ノ慣例ニ從ヒ保險者ノ請求ヲ待タルノミニシテ毫モ不拂
ノ意思無シト主張スヘシ然レトモ此習慣ハ頗ル不完全ナル習慣ニシテ且ツ之
ヲ以テ商慣習ト看做サンニハ其基礎薄弱ナルヲ如何セン何トナレハ保險者ヲ
シテ必ス期日ニ於テ請求セシムルコトハ數多ノ契約ヲ締結セル者ニ對シテ行
ハルヘカラサルト同時ニ期日ニハ契約者カ必ス自宅ニ在テ請求ニ應ジテ保險
料ヲ支拂フモノト謂フヘカラス或ハ他出シテ容易ニ拿フヘカラサル場合アル
カ故ナリ故ニ保險者ニ集金セシムルノ習慣ハ眞ニ營業ノ利便上保險料ノ容易
ク拂込マルルコトヲ希圖スル爲メニ行フ所ノモノニ過キスシテ權利義務ノ上
ニ於テ之ニ羈束セラルルコト無シト知ルヘシ故ニ契約者ハ此習慣ニ拘ラス拂
込期日ニハ必ス保險料ヲ拂込マサルヘカラス然ラサレハ契約無効ノ不幸ヲ見
ナルヘカラサルヘシ

拂込期日カ休日又ハ祭日ニ當リタルトキハ當然一日ノ猶豫アルモノトセサル
ヘカラス即チ大祭日及ヒ日曜日ハ一般ニ取引ヲ休止スルノ日ナレハ店舗ヲ閉
チタル保險者カ保險契約者ニ對シテ其日ニ保險料ノ拂込ヲ強制スルヲ得サル
ナリ故ニ拂込期日若シハ猶豫期間満了ノ日カ休日ニ當リテ其日ニ事故カ發生
セルトキト雖モ翌日ノ拂込ヲ以テ契約ヲ有效ナラシムルヲ得ルモノトス

第三款 危險

保險契約ノ目的ハ危險ト相關フニ在リ故ニ危險ノ存在セサル所ニ保險契約ノ
成立セサルハ勿論之カ包容及ヒ變化カ契約ノ效力ニ大ナル影響ヲ與フルモノ
ナルカ故ニ少シク茲ニ之ヲ繰返スノ必要ヲ見ルナリ

危險トハ不測ナル事故ノ發生スヘキ程度ヲ指シタルモノニシテ畢竟事故ト同
一ナリ唯一ハ客觀的ニシテ他ハ主觀的ナルノ差違アルノミ
事故ハ經濟的損害ヲ惹起スモノタルヘキコト及ヒ不測ニ發生スルモノタルヘ
キコト並ニ不測ニハ絕對的ト相對的ノ差違アルコトハ曩ニ保險契約ノ定義ニ

於テ之ヲ述ヘタルカ故ニ今之ヲ喋喋セスト雖モ事故ハ其將來ニ起ルヘキモノタルヲ要スルコトハ一言ヲ費ズノ價值アリ保險契約締結以前ニ已ニ目的ノ事故カ發生シタル場合若クハ締結後ニ於テ決シテ事故ノ發生スヘカラサル場合ノ如キハ契約ノ目的タル填補行為ノ必要ナキ場合ナルカ故ニ固ヨリ契約ヲ成立セシムルノ必要ナシ然ルニ保險契約ハ契約者ニ安堵ノ利益ヲ供スルノ一ノ目的ト結果ヲ有スルヨリ絕對的不測ノ事故ナラサルモ當事者ニノミ不測ナリセハ之カ成立ヲ認ムルノ利便ナルト又實際ニ於テ契約ノ瞬間ニ既ニ事故カ發生セリヤ將タ未タ發生セサルヤ不分明ナル場合アルカ故ニ苟モ當事者カ知ラサル限りハ契約ヲ有效ナラシムルノ主義ヲ採リ我商法ハ第三百九十七條ニ左ノ規定ヲ設ケタリ

保險契約ノ當時當事者ノ一方又ハ被保險者カ事故ノ生セサルヘキコト又ハ既ニ生シタルコトヲ知レルトキハ其契約ハ無効トス

[知レルトキハ無効トス]トノ裏面ニハ知ラサル場合ハ有效ナリト認ムルノ意アルヤ明カニシテ例ヘハ海上保險ノ如キニ於テ茫茫タル海洋ヲ航行スル船舶ノ

已ニ風波ノ難ニ遭ヒテ覆没シタルヤ將タ安全ニ浮ヒツツアルヤ誰人ニモ不明ナル場合ニ於テ之カ契約ヲ締結スルノ必要アルコトヲ想像シタルナルヘシ普通保險ニ於テハ此ノ如キ例甚タ多カラスト雖モ再保險ニ於テ常ニ見ル所ノモノナリ此場合ニ於テハ後日證據アリテ契約締結ノ際ニハ已ニ當該船舶沈没セルコトノ證明セラルルト雖モ當事者ハ元來之ヲ知ラサルカ故ニ該契約ハ有效ニシテ保險者ハ一旦拂渡シタル保險金ヲ取戻スコトヲ得サルナリ

前陳ノ主義ハ嚴格ナル保險ノ道理ヨリスレハ非難スヘキモノタルハ勿論ニシタ雷ニ既往ノ損害ヲ填補スルノ不理ヲ來スノミナラス之ヲ利用シテ賭博の嗜好ヲ満足セシメントスル者ノ發生ヲ促スニ至ルノ弊アリ而モ今日保險事業ノ發達シタル文明諸國ニ於テ之ヲ認ムルハ便宜上ト歴史的ノ結果ニ外ナラス就中此場合ノ存スルハ曩ニ述ヘタルカ如ク海上保險ニ最も多クシテ英國ニ於テハ此時約ヲ爲サシカ爲メニ「ロスト・オブ・ナフト・ロスト」事故ノ發生セルト否トニ拘ラスノ意ナル文句ヲ契約ノ要項中ニ挿入スルコトセリ其當初ノ目的ハ保險契約ヲ締結セラレタル船舶カ行衛不明ト爲リテ長ク發見サレザリシ場合ニ

此特約ヲ作リタリト稱セラルルモ一千五百二十三年ノ「プロレンス」ノ證券ヲ見ルニ此條項未タ挿入セラレス而シテ一千六百十三年ノ英國ノ證券ニ此條項ノ掲ケラレタルヲ以テ察スルニ前述ノ如キ投機ノ思想ヨリセルニ非スシテ外國ノ添港ヨリ歸航若クハ回航スル所ノ所有船舶カ途中ニ危險ニ遭遇スル場合ニ對シ商人ヲ保護スルノ目的ヲ以テ發明セラレタリトスル方眞ニ近キカ如シ是ヨリシテ漸次其利用ヲ擴張シ遂ニ我商法ニ於ケルカ如ク一個ノ主義ニ進歩シタルナリ

危險ハ又天然ニ發生スルモノタルト人爲ニ出ツルモノタルヲ問ハス例ヘハ生命保險ニ於ケル死亡ハ疾病ニ起因スルト人ニ殺害セラレタルトニ拘ラス火災保險ニ於ケル火災ハ天火ナルト放火ナルトヲ論セス又霜害蟲害ノ如キ天然ノ災禍ノ外徵兵ノ如キ國家ノ行動ニ基ク所ノ危險ニ對シテモ保險ノ契約ヲ締結シ得ヘキカ如シ

絕對的關係的天爲人爲ノ有ラユル宇宙間ノ危險ヲ考察スレハ千差萬別ニシテ保險セラルヘキ危險實ニ無數ト謂ハサルヘカラス洪水、暴風、霖雨、旱魃、海嘯、難

船火山ノ破裂、劍難、盜難、疾病、負傷、老衰、死亡等ハ勿論霜害、雪崩、雹害、虫害、流關ノ破裂、車馬ノ衝突、雇人ノ拐帶、債務者ノ逃亡、破産、甚シキハ政黨大臣ノ辭職、零落等ニ至ルマテ悉ク之ヲ不測ニシテ經濟の損害ヲ惹起ス所ノ危險ト謂フヘキカ故ニ保險契約ノ目的タルヲ得ルモノト謂ハサルヘカラス故ニ法律ヲ以テ之ヲ列舉センコトハ至難且ツ無用ナル業ニシテ舊商法ニハ保險スルコトヲ得ヘキ危險ハ主トシテ火災、地震、暴風雨其他ノ天災、陸海運送ノ危險、死亡及ヒ身體上ノ災害ナリ然レトモ其他ノ危險ニ對スル保險ハ此カ爲メニ妨ケラルコト無シト規定シ概括法ニ加フルニ説明の列舉ヲ以テセルモ新商法ハ全然此醜キ列舉の規定ヲ去リ損害保險ノ總則第三百八十四條ニ於テ「偶然ナル一定ノ事故ナル一句ヲ以テ危險ノ説明ト爲セリ是レ事ロ予ノ賛成スル所ナレトモ此伎倆アル起草者カ第四百二十七條ノ蛇足ヲ敢テセラレタルハ予ノ遺憾トスル所ナリ」宇宙間ニ發生スヘキ偶然ナル事故實ニ枚舉ニ遑アラサルト同時ニ保險ニ付セラルヘキ危險無數ナルノ理ナリ然レトモ實際ハ理論ト異ナリ保險事業ノ旺盛ナル外國ニ於テモ保險契約ヲ以テ覆ハルル所ノ危險ノ種類甚タ多カラス生

命、火災、海上ノ三危險ヲ最重要ナルモノトシ其他怪我、運送、電害、玻璃、徵兵、盜難、疾病等ノ危險ヲ保險スルコトアルノ外又多ク見ザルナリ本邦ニ於テハ僅ニ生命、火災、海上、運送、徵兵、疾病ノ保險アルノミ其然ル所以ハ危險ノ性質上ノ實行ヲ難シスルニ因ルモノナリ請フ少シク之ヲ陳ヘシメヨ

(一) 至大ナル危險ハ保險シ難シ

茲ニ所謂至大ナル危險トハ該危險カ一タヒ發生スルニ當リテヤ吾人カ非常ナル損害ヲ被ルヘキ性質ノ危險ヲ謂フナリ例ヘハ洪水、地震ノ如シ洪水、地震ノ損害タルヤ一タヒ起ルトキハ大ニシテ數國郡小ニスルモ尙ホ數村ニ亘リ其損害ノ額無慮數百萬圓ニ上ルコトアリ此ノ如キ巨大ナル損害ハ實際之ヲ填補スルノ力アル者ヲ得ルニ難シ故ニ舊商法ニ掲ケタル地震、暴風、雨其他ノ天災等ノ語ハ頗ル實際ニ通セサルノ陋ヲ遺スノミ

(二) 過小ナル危險ハ保險シ難シ

至テ大ナル損害ヲ惹起ス所ノ危險カ保險スルニ難キト同時ニ微小ナル損害ヲ伴フ所ノ危險モ亦保險ヲ成立セシメス是レ保險契約ニ依リテ他人ニ填補セシ

ノ支拂ト同一ノ效力アルモノトシテ債權者ハ多額ノ配當ヲ受クヘキ共同債務者ノ一破産ヲ選擇シテ債權ノ届出ヲ爲シタルトキハ他ノ破産ニ届出ヲ爲スコトヲ得セシメス蓋シ配當ヲ受ケタル債權者ハ債權全部ノ支拂ヲ受ケタルニ同シケレハナリ然レトモ此主義ハ配當カ債權者ト破産者トノ關係ニ於テ債權ノ辨濟ト同一視スヘキモ第三者殊ニ他ノ破産手續ニ於ケル債權者ニ對シテハ唯一部辨濟ノ效力アルニ止マルヲ以テ又共同債務ノ擔保的效力ヲ減削スルヲ以テ排斥セラレタリ次ニ「ジュブユイ」主義(「ジュブユイ」氏ノ説ニシテ「ボチエ」(「エメリゴン」)「ジュユス」氏等ノ採用シタルモノナリ獨逸人ハ之ヲ「スタツフエル」トオリ「」ト稱セリ行ハレタリ同主義ハ甲破産ニ於テ受取リタル配當額ヲ控除シタル殘額ニアラスンハ乙破産ニ届出ルコトヲ得セシメス此主義ハ普通ノ法理ニ適ス何トナレハ債權者ハ一部辨濟ヲ受ケタル以上ハ殘額ノ「」ニ付キ權利ヲ有スルニ外ナラサレハナリ然レトモ此主義ハ多數ノ破産中ノ一カ百分ノ百ノ配當ヲ供スルコトヲ得ル場合ニアラスンハ債權者ニ完済ヲ得セシムルノ機會ヲ與ヘサルヲ以テ共同債務關係ヲ設ケタル當事者ノ意思ニ反スルニ至ルヘシ是

ヲ以テ千七百七十六年六月十八日佛國ノ巴黎裁判所ハ債權者カ配當額ヲ受ケタルト否トニ拘ラス完済ヲ受クルマテ債權全部ニ付キ届出ヲ爲スコトヲ得ト判決シ文明諸國ニ於テ認メタル全額届出繼續主義ヲ創設シタリ(デルンブルヒ氏ノ著普爾西ノ私法論ニ於テ破産手續ニ於ケル債權者ノ配當額ノ受領ハ支拂ニアラスシテ寧ロ防禦ト認ムヘキモノタリ蓋シ任意ノ受領ニアラザレハナリト云ヘリ)

任意の一部辨済額ヲ控除セスシテ各破産ニ届出ヲ爲スノ法則ハ先ニ示シタル法則ノ擴張ナルヘシ而シテ第三者カ任意の一部辨済ヲ債權者ニ對シテ爲セタル場合モ亦同一法理ニ依リテ同一ノ論決ヲ爲スヘシ(佛國ノ「リオンカン」(ターレ)氏等ハ法律カ當事者ノ意思ヲ解釋シ他ノ破産ニ對シテ債權ノ一部辨済ノ效力ヲ認メサルニ在リト説明シ佛國ノ「ボアスタル」氏ハ一部辨済ノ任意ナルヲ理由トシテ反對ニ決シタリ獨逸破産法ハ破産債權者ノ或者カ破産手續中他ノ債權者ヲ害シテ利益スルコトヲ得セシメサルカ爲メニ破産宣告ノ當時ニ於ケル事情ハ爾後發生シタル事情ニ因リテ變更スルモノニアラストノ見解ニシテ

前順ノ法則ヲ是認シタルモノノ如シ)

第三ニ債權者ハ二人以上ノ共同債務者カ破産宣告ヲ受クル以前ニ於テ共同債務者ヨリ(後日破産宣告ヲ受クル他ノ共同債務者ナルトヲ問ハス)又ハ其破産財團ヨリ受領セタル一部辨済額ヲ控除シタル殘額ニアラスンハ之ヲ届出ルコトヲ得ス獨逸ノ破産法第二百七條ハ共同債務ノ目的即チ債權者ニ完済ヲ得セシムルノ目的ヲ達スルカ爲メニ債權者ニ許スニ債權全額ノ届出ヲ以テシテ控除主義ヲ排斥シ佛國商法第五百四十四條ハ受領シタル一部辨済カ民法的辨済ナルトキハ民法上原則ノ適用ニ因リ一部辨済ノ效力アルモノトシテ控除主義ヲ認メ受領シタル一部辨済カ破産の配當ノ結果ナルトキハ債權者ハ共同債務者ノ一人ノ破産ニ因リテ債務ノ完済ヲ受クルコトヲ得ルヤ否ヤニ付キ疑惑ヲ抱キ爲メニ斯ル辨済ニ債權ノ一部ヲ消滅セシムルノ效力ヲ付スルコトヲ欲スルノ意思ヲ有セサルヤ當然ナリトノ理由ヲ以テ控除主義ヲ排斥シタリ(佛國人「リオンカン」「ボアスタル」「ブラバル」諸大家ノ見解ニ依ル但シ「ルヌアール」「ドムロン」氏等ハ斯ル場合ニ於テハ債權者ハ破産セサル他ノ共同債務者ニ對シ全然請

求ヲ爲スコトヲ得ヘキヲ以テ特別ノ保護ヲ與フルノ理由ナキヲ以テ反對ノ論決ヲ爲シタリ獨逸新破産法第六十八條ハ一部辨濟ノ民法タルト配當のタルトヲ問ハス民法上共同債務ノ一部ヲ消滅セシムルノ效力アリ之ヲ換言スレハ斯ル辨濟ニ因リテ其辨濟額ニ付キ債權者ハ債務者ノ無資力ヨリ生スル損害ヲ免レンカ爲メニ權利狀態ニ適セサル地位ヲ有ストノ理由ヲ以テ全然控除主義ヲ認メタリ

我商法第三十一條第一項ハ單ニ債權ノ全額ヲ届出ツルコトヲ得ト云フニ止マリ民法第四一條其債權ノ全額破産宣告ノ當時ニ於ケル債權ノ全額ナルヤ否ヤニ付キ明文ナキヲ以テ文理解釋上控除主義ヲ認メタルヤ否ヤヲ確知スルコト能ハス然レトモ余輩ハ論理解釋上獨逸破産法ト同一法理ヲ認メタルモノト主張セント欲ス何トナレハ減少主義ハ尤モ學理ニ適スレハナリ第三者ノ爲シタル一部辨濟モ亦同一法理ニ基キテ同一ニ論決スヘシ是レ余輩カ先ニ其宣告ノ當時ニ於テ有スル債權全額ニ付キ届出ヲ爲スコトヲ得ト云ヒシ所以ナリ破産セタル共同債務者ニ對シテ求償債權ヲ有スル共同債務者ハ其債權者ニ對シ

爲シタル一部辨濟額ニ付キ債權者ト競合シテ求償義務者ノ破産ニ届出ヲ爲スコトヲ得ヘシ何トナレハ債權者ハ殘額ニ付キ届出ヲ爲スモノナルヲ以テ同一債權カ重複ニ破産手續ニ加入スルノ虞ナケレハナリ競合ニ關シテハ佛國ニ反對論アリ瑞西ノ破産法ハ此反對論ヲ是認シタリ而シテ破産手續ニ於テ殘額ヲ届出タル債權者ハ求償債權者タル共同債務者カ求償債權ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ之ヲ差押ヘ以テ配當額ヲ自己債務ノ辨濟ニ充フルコトヲ得又斯ル共同債務者カ届出ヲ爲ササル場合ニ於テハ求償債權ヲ差押ヘ自己ノ債權ノ辨濟ニ供スルカ爲メニ之ヲ行使スルコトヲ得ヘシ何トナレハ共同債務者ハ債權者ニ對シ完済ヲ爲スノ義務ヲ負フヲ以テナリ

以上説明シタル如ク債權者カ二人以上ノ共同債務者ノ各破産ニ於テ債權全額ノ届出ヲ爲スコトヲ得ル結果トシテ自己ノ負擔部分以外ニ配當ヲ爲シタル共同債務者ノ破産財團ヨリ他ノ求償義務アル共同債務者ノ破産財團ニ對シ又ハ破産宣告ヲ受ケタル求償義務者ニ對シ求償債權ヲ行フコトヲ得ルヤ否ヤノ問題ヲ生ス獨逸ノ破産法ハ何レモ積極的ニ論決シタリ蓋シ民法上求償債權ノ行使

ハ獨民第四二六條第七七四條獨逸新破産法第六十八條ニ依リテ妨ケラレサルヲ以テナリ前者ノ問題ニ關シテハ我商法第三十一條第二項ハ佛國商法第五百四十三條及ヒ瑞西破産法第二百十六條第二項ノ規則ト同シテ債權者ノ受取リタル配當額カ債權者ニ支拂フヘキ債權額ヲ超過セサル以上ハ求償權ノ行使ヲ禁止反對ノ場合ニ之ヲ許シタリ禁止ノ理由ハ債權者ハ各破産ニ關シ全額ノ届出ヲ爲スカ故ニ求償權ノ行使ヲ許ストキハ同一ノ債權カ數回配當加入ヲ爲スニ至ルノミナラス實際上求償權ヲ認ムルモ多クハ實效ヲ奏スルコトナク反テ手續上煩雜ヲ來スニ過キサレハナリ許容ノ理由ハ配當總額カ届出債權全額即チ主タルモノ(元本及ヒ從タルモノ)費用利息等ノ合額ヲ超過シタルトキハ民法第四百九十一條ニ從ヘハ主從ノ支拂ナクシハ債權全部ノ支拂ニアラス又商法第九百八十九條ニ從ヘハ破産宣告ニ因リ利息ヲ停止スルヲ以テ順次破産ノ場合ニハ届出債權額ニ差等アルハ當然ナルヘシ(其超過額ヲ不當利得ノ原則即チ債權ノ強制執行トシテ其債權額以上ノ全額ヲ受取ルコト能ハサルニ因リテ其他同一債權カ重複ニ加入スルノ虞ナク又手續上煩雜ヲ來スコトナキニ由リ

共同義務者中他ノ共同義務者ニ對シテ償還請求權ヲ有スル者ノ財團ニ歸セシメタリ後者ノ問題ニ關シテハ民法上ノ原則ニ從ヒテ求償權ヲ行使スルコトヲ得ルモノト論決セサルヘカラス何トナレハ法律ハ破産財團間ノ求償權ノ行使ヲ禁止シタルニ止マレハナリ求償義務者カ破産宣告ヲ受ケタルモ破産債權ヲ完済シ破産者タルノ境遇ヲ脱セタルトキハ同一法理ニ依リ同一ニ論決セサルヘカラス

(ロ) 共同債務者ノ一人カ破産シタル場合 主タル債務者又ハ連帶債務者ノ一人カ破産シタルトキハ前ニ示シタルト同一ノ法理ニ基キ債權者ハ破産宣告ノ當時ニ有スル債權全額ニ付キ届出ヲ爲スコトヲ得故ニ破産宣告以後ニ於テ保證人其他ノ共同債務者又ハ第三者ヨリ受ケタル一部辨済ヲ減少セスシテ債權全部ノ届出ヲ爲シ又ハ之ヲ繼續スルコトヲ得第一〇三〇條獨逸新破産法第六八條債權者ハ其債權ヲ破産法ニ從テ主張セタルトキ即チ届出ヲタルト又協議契約ノ成立シタルトキト否トニ拘ラス共同債務ノ效果トシテ破産セサル保證人其他ノ共同義務者ニ對シテ破産宣告ノ當時ニ有スル債權全額ニ付キ主張スルコ

ト得破産宣告以後共同債務者ヨリ一部辨済ヲ受ケタルトキハ之カ辨済額ヲ減少シタル殘額全部ニ付キ主張ヲ爲スコトヲ得ルハ當然ナリ(法文ニ「届出ヲタル債權」ト謂ヘルハ蓋シ債權ハ通常届出ヲ爲スヘキモノナルヲ以テナリ)隨テ之カ爲メニ反對推理ニ依リテ届出ヲ爲ササレハ他ノ共同債務者ニ對シ失權スルモノト解スヘカラス協諾契約ノ有無ニ拘ラサルハ蓋シ協諾契約ハ債務ノ免除ニアラス且ツ其效果トシテ債權者ニ他ノ共同債務者ニ對シ失權ヲ來スモノトセハ該契約ノ成立ヲ妨クルカ故ノミナラス協諾契約ハ法意及ヒ當事者ノ意思ニ從ヘハ破産者其人ノミノ爲メニスル恩典處分ニシテ總テ共同債務者ノ利益ノ爲メニスルモノニアラス隨テ他ノ共同債務者ニ對スル請求權ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナケレハナリ(獨逸舊破産法第一七八條末段同新破産法第一九三條佛蘭西商法第五四五條瑞西破産法第三〇三條)

保證人又ハ共同義務者ハ其求債權ヲ共同義務者ノ破産ニ於テ届出ツルコトヲ得(第一〇三〇條中段)破産宣告以後ニ於テ一部支拂ヲ爲シ又ハ毫モ支拂ヲ爲ササル求債權アル共同債務者ハ債務者カ其債權ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テ前ニ

述ヘタルカ如ク副位的ニ求債權ノ届出ヲ爲スノミ隨テ主タル債務者ノ爲メニ成立シタル協諾契約ノ效果ニ從ハサルヘカラス(第千三十條下段并ニ第二節ノ二ノ説明參照第千三十條中段及ヒ下段ハ甚タ曖昧ナルヲ以テ尙ホ研究ノ餘地アリ)

破産宣告以前ニ於テ一部ノ支拂ヲ爲シタル求債權アル共同債務者ハ破産債權者トシテ總テノ債務者ト競合シテ破産手續ニ於テ求債權ヲ主張スルコトヲ得ルハ當然ナリ全部ノ支拂ヲ爲シタル場合モ亦然リ而シテ共同債務者カ債權者ニ對スル負擔部分ノ範圍ヲ異ニスル場合ニ於テ例ヘハ主タル債務者ハ千圓ノ債務ヲ負ヒ保證人ハ八百圓ニ付キ擔保ヲ爲シタルノ類破産宣告ヲ受ケス且ツ負擔シタル小部分ノ債務全部ノ支拂ヲ爲シタル共同債務者ハ其支拂ノ他ノ共同債務者ノ破産宣告前タルト又其後タルトニ拘ラス單純ナル破産債務者トシテ求債權ノ届出ヲ爲スコトヲ得ヘシ何トナレハ前ニ示シタル債務全部ノ支拂カ他ノ共同債務者ノ破産宣告以前ナルトキハ債權者ハ殘額ニ付キ届出ヲ爲シ求債權アル債務者ハ權利ノ届出ヲ爲スコトヲ得ヘク又他ノ共同債務者ノ破産宣

告以後ナルトキハ債務全部ノ支拂アル當然ノ結果トシテ其支拂ヲ爲シタル共同債務者ニ對スル債權者ノ權利ハ當然消滅シタルモノト謂フヲ得ヘク隨テ一部辨濟ヲ前提トシタル問題ノ法則ヲ適用スルコト能ハサレハナリ故ニ後者ノ場合ニ於テハ債權者ハ殘額ニアラスンハ破産手續ニ於テ加入スルコトヲ得サルモノタリ從タル債務者即チ保證人カ破産シタル場合ニ於テハ法律上別ニ明文ナシト雖モ理論上之ヲ解スルニ難カラス保證人カ主タル債務ノ履行期到來前ニ於テ破産シタルトキハ債權者ハ停止條件附債權トシテ届出ヲ爲スコトヲ得ヘシ何トナレハ主タル債務ノ履行期到來以前ニ於ケル債權者ト保證人トノ關係ハ一ノ停止條件附債權關係ナルヲ以テナリ(民法第四六六條保證人カ主タル債務ノ履行期到來以後ニ於テ破産シタルトキハ債權者ハ管財人カ主張シタル保證人專屬ノ抗辯民法第四五二條第四五三條カ正當ナル場合ニ於テ停止條件附債權トシテ債權ノ届出ヲ爲スコトヲ得ヘク主タル債務カ條件附ナルトキハ債權者ノ保證人ノ破産ニ於ケル届出モ亦條件附タルヘク其他ノ場合ニ於テハ條件ナキ債權トシテ債權ノ届出ヲ爲スコトヲ得而シテ債權者ニ配當ヲ供シタル

ニ因リ破産シタル保證人ノ行使スルコトヲ得ヘキ求償權ハ破産財團ニ屬スヘキモノナルヤ言フ俟タス瑞西ノ破産法ハ特ニ保證人ノ破産ニ付キ簡明ナル規定ヲ設ケ(瑞西破産法第二一五條保證人ハ破産ニ依テ當然抗辯ヲ喪失スルヲ以テ債權者ニ配當額ヲ受クルヲ得セシメタリ立法上便宜ニ適スル規定ト謂フヘシ

(五) 物的擔保アル債權主張ノ範圍

質權抵當權ノ如キ物的擔保アル債權ヲ有スル者ハ物的擔保ノ目的物ノ破産財團ニ屬スル場合ナルト否トニ拘ラス債權金額ニ付キ破産手續ニ於テ主張スルコトヲ得何トナレハ此種ノ債權者ト雖モ債務者其者ニ對スル權利ヲ有スルヲ以テ破産債權者ニ外ナラサレハナリ物的擔保ノ目的物カ破産財團ニ屬セサル場合ニ於テハ(民法第三四二條第三六九條ノ三者債權者ハ破産財團ヨリ又ハ物的擔保ノ目的物上ヨリ完済ヲ受ケサル以上ハ債權金額ニ付キ配當ニ加入スルコトヲ得是レ多數當事者ノ債權ノ範圍ニ於ケル法則ノ準用ヨリ出ツルモノタル物的擔保ノ目的物カ破産財團ニ屬シタル場合ニ於テハ民法第三四二條第

三六九條ノ債務者債權者ハ物的擔保ノ目的物上ニ別除權ヲ主張スルコトヲ得而シテ債權者カ別除權ヲ主張シタルトキハ破産債權者トシテ配當の満足ヲ受クヘキ範圍ハ別除權ヲ拋棄シタル部分又ハ別除權ニ依リテ満足ヲ得サリシ不足部分タリ第九九條其未済ノ債權ハ獨逸新破産法第六四條何トナレハ此部分ニ關シテノミ別除權者ノ破産債權者ト謂フヘケレハナリ

第四節 破産債權ノ順位

破産債權ハ互ニ同等ニシテ等差ナキヲ破産法上ノ原則トス蓋シ破産債權ニ等差ヲ設クルコトハ社會上必要ナル信用制度ヲ破壞シ且ツ破産手續ノ實行ヲ困難ナラシムルヲ以テナリ故ニ破産財團カ各破産債權ヲ完済スルニ充分ナラサルトキハ各破産債權ハ破産手續ニ於テ主張シタル範圍ニ從テ比例的満足ヲ享有スルモノトス然レトモ公益ノ保護ト社會的關係ニ必要ナル信用制度ヲ保護スルカ爲メニ例外トシテ破産債權ノ等差即チ二三ノ先取特權優先的ニ満足ヲ求ムルコトヲ得ル權利ヲ設ケサルヲ得サルナリ故ニ獨逸及ヒ瑞西ノ破産法ノ

如キ新主義ノ破産法ハ斯ル特權アル破産債權ヲ認メタリ獨逸破産法第六十一條ニ從ヘハ破産債權ノ順位ハ第一ニ破産手續開始前最後ノ一年間延滞シタル雇傭契約ニ基ク報酬食料等ノ權利第二ニ國家其他ノ公法人ニ納付スヘキ破産手續開始前最後一年間ノ租稅第三ニ協會學校其他ノ公共團體ニ納付スヘキ破産手續開始前最後一年間ノ負擔第四ニ破産手續開始前最後一年間ノ醫藥料第五ニ破産者ノ子及ヒ破産者ノ被後見人カ破産者ノ法律上管理シタル自己ノ財産上ニ付キ有スル權利第六ニ其他ノ破産債權ニシテ同順位ノ破産債權ハ平等的ニ満足ヲ受クルモノナリ我國ニ於テハ佛國民法ニ則リ新民法中ニ物權トシテ先取特權ヲ掲ケ又商法第千三十二條ニ於テ諸稅ノ支拂ニ關スル規定ヲ設ケ破産法ニ於テ先取特權ヲ規定セラレサリ斯ル編纂ハ立法上大ニ其當ヲ失シタル所ニシテ又余輩カ新民法ノ爲メニ甚タ遺憾トスル所ナリ蓋シ先取特權ハ破産財團カ各破産債權ヲ完済スルニ不充分ナル場合ニ於テ實用アルモノナレハ破産法中ニ規定スルヲ正當ト爲セハナリ

第五節 破産債權ノ確定

破産手續ニ於ケル破産債權ノ主張ハ破産主任官ニ對スル破産債權ノ届出ニ依
リテ之ヲ爲シ又配當ニ加入スルコトヲ得ルニハ届出タル債權ノ確定シタル
コトヲ要ス隨テ破産手續開始以前ニ於テ既ニ民事訴訟法ノ規定ニ則リテ權利
拘束ト爲リタル權利ハ勿論既ニ民事訴訟法上確定シタル債權ト雖モ破産手續
ニ於テ主張スルニハ届出ヲ爲ササルヘカラス第一〇二三條總債權者届出タル
破産債權ハ調査會ニ於テ之ヲ調査ス(第一〇二五條)而シテ該會ニ於テ管財人ヨ
リモ又債權ノ確定シ若クハ貸借對照表ニ掲ケタル債權者ヨリモ異議ヲ申立テ
サルトキ又ハ異議アリタルモ之ヲ取消シタルトキハ破産債權ハ承認ニ因リテ
確定シ債權表ニ附記シタルニ因リテ確定判決ノ效力ヲ有セ又該會ニ於テ異議
ノ申立アリタルトキハ破産裁判所ノ判決ヲ以テ破産債權ヲ確定ス(第一〇二七
條)此ノ如ク破産債權ノ確定ヲ必要トスル理由ハ不當ナル破産債權者ヲ以テ破
産手續ニ於テ支拂ヲ受クルコトナカラシメ又債權者トシテノ行爲ヲ拒ムカ爲

メナリ破産財團ニ對スル執行名義ヲ取得スルカ爲メナリ

第三章 破産財團

破産手續ハ其開始ノ當時ニ於テ破産者ノ財産上ニ満足ヲ受クル權利ヲ有スル
者ニ平等の満足ヲ得セシムルヲ目的トス此平等の満足ノ用ニ供スル破産者ノ
財産ヲ破産財團ト稱ス故ニ破産關係ニ於テハ破産財團ナルモノアルハ當然ナ
リ破産財團ノ意義破産財團ト破産當事者トノ關係破産財團ノ増加并ニ減少及
ヒ破産財團ノ消滅ヲ畧述スヘシ

第一節 破産財團ノ意義

一 性質

破産財團トハ破産の強制執行ヲ爲スコトヲ得ル破産者ノ財産ナリ故ニ破産宣
告ノ當時ニ存シタル財産ハ勿論破産者カ破産手續終結以前ニ於テ取得シタル
モノニシテ強制執行ノ目的物タルコトヲ得ル以上ハ悉ク破産財團ニ屬ス左ニ

破産法 實體的破産法規 破産財團

之カ成分ヲ略述スヘシ

(1) 財産

債務者ノ財産即チ金錢的價額アル權利ノ總體ハ債權者ノ共同擔保ナリ而シテ權利ハ完全ニ履行セラレサルヘカラス是ヲ以テ債務者カ其義務ヲ完全ニ履行セサルトキハ債務者ノ財産ヲ以テ各債權者ノ辨濟ニ供スルヲ通則トス破産的執行ニ於テモ亦然リ故ニ金錢的價額アル破産者ノ物權及ヒ債權ハ破産財團ニ屬ス然レトモ親族關係ニ基ク權利戶主權夫權親權等ハ縱令其結果トシテ財産權ヲ生スル場合ト雖モ破産財團ノ成分ト爲ラス何トナレハ這ハ債權者ノ共同擔保ノ目的ト爲ラサレハナリ債務者其者ニ專屬スル財産權民法第二百七十二條ニ從テ設定セラレタル讓渡禁止ノ永小作權ノ如キモ亦然リ

(ロ) 破産者ノ財産

破産財團ハ破産者ノ財産ナリ破産宣告ノ當時ニ於テ事實上破産者ノ財産中ニ存シタル他人ノ財産ハ破産財團ニ屬セス何トナレハ他人ノ財産ヲ以テ債權ノ辨濟ニ供スルコトハ法理ノ許ササル所ナレハナリ是ヲ以テ事實上他人ノ財産

カ破産財團中ニ存シタルトキハ茲ニ取戻請求權ヲ成立セシム

(ハ) 破産手續ノ終結前ニ於テ破産者ニ屬シタル財産

破産財團ニ屬スヘキ破産者ノ財産ハ破産宣告ノ當時ニ於テ破産者ニ屬シタルシモノニ止マルヤ又ハ破産宣告以後破産手續ノ終結マテニ於テ破産者ニ屬シタル財産ヲモ包含スルヤ否ヤノ問題ニ對シテハ立法上ニ大主義アリ獨逸主義及ヒ羅馬主義即チ是ナリ獨逸主義即チ獨逸ノ破産法獨逸第一條第一〇八條第一四條ハ破産手續開始ノ當時ニ於テ破産者ニ屬シタル財産ノミカ破産財團タルヘキ旨ヲ明言シタル其理由ハ第一ニ破産手續ノ進行ヲ容易ナラシメ第二ニ破産者ニ破産手續中取得シタル財産ニ付キ完全ナル權利ヲ有スルヲ得セシメ以テ可成の速ニ信用ヲ回復シ新ナル經營ヲ爲スノ機會ヲ得セシムルヲ經濟上正當トシ第三ニ破産債權者ヲ破産宣告ノ當時ニ債權ヲ有スル者ニ限定シ破産宣告以後ニ於テ破産者ニ屬シタル財産ヲ破産財團中ニ包含セシムルハ失當ナリト謂フニ在リ羅馬主義即チ羅馬法獨逸ノ古法及ヒ普國破産法第一條佛國商法第四百四十三條英國破産法第四十四條奧國破産法第一條瑞西破産法第百九

十七條第二項其他伊太利白耳義葡萄牙等ノ立法ハ破産手續終局以前ニ於テ破産者ニ屬セタル財産ハ破産財團ニ屬スル旨ヲ明言シタリ我商法モ亦此主義ニ屬スルコトハ商法第十九條第五相續又ハ遺贈ヲ拒絕スルコト第八權利ヲ拋棄スルコト等ノ法文ニ徴シ瞭然タルヘシ而シテ此主義ノ理由ハ可成の破産債權者ハ完全ナル辨濟ヲ得セシムルノ目的ニ出ラタルモノト認ム獨逸主義ハ破産宣告以後ニ破産者ノ取得シタル財産上ニ第二又ハ其後ノ破産手續ヲ開始スルノ結果ヲ呈シ羅馬主義ハ破産手續繼續中更ニ破産手續ヲ開始スルコトナキノ結果ヲ呈スルヤ言フ俟タス獨逸主義ハ羅馬主義ヨリ理論ニ適シ且ツ重複破産ノ結果ヲ呈スルカ爲メニ破産手續ヲ迅速ニ終結セシムルノ妨害ヲ爲スモノニアラサルヲ以テ余輩ハ立法上之ヲ正當ト認ム

（註）上ニ於テ羅馬主義ハ破産手續終結以前ニ於テ破産者ニ屬シタル財産ハ皆破産財團ト爲ル而シテ財産カ破産者ニ屬スルヤ否ヤハ民法ニ依テ之ヲ定ム故ニ破産手續終結以前ニ於テ破産者ニ屬シタル財産タルニハ破産手續終結以前ニ於テ破産者ノ爲メニ財産取得ノ要件ノ存在スルコトヲ要ス（契約

上ノ中込アルノミニテハ未タ財産ヲ取得シタルモノト認ムルコト能ハサルヤ言フ俟タス之ヲ換言スレハ破産者ノ或財産カ破産手續終結以前ニ於テ發生シタル權利原因ニ基キタル以上ハ縱令其實行カ破産手續開始以後ニ現ハルル場合ト雖モ破産手續終結以前ニ於テ破産者ニ屬シタル財産トシテ破産財團ニ包含セラル蓋シ斯ル權利ハ破産手續終結以前ニ於テ破産者ニ屬シタル財産ノ成分ヲ爲スヲ以テナリ故ニ（一）期限附及ヒ條件附權利ハ縱令破産手續終結以後ニ於テ期限ノ到來シ及ヒ條件ノ成就スヘキモノト雖モ破産財團ニ屬ス（民事訴訟法第六一三條獨民訴第七四三條）（四）破産者若クハ其相續人ノ爲メニ約定セラレタル保險契約上ノ請求權モ亦破産財團ニ屬ス然レドモ第三者ノ爲メニ約定セラレタル保險契約上ノ請求權ハ破産財團ニ屬セス何トナレハ斯ル權利ハ破産者ノ爲メニ成立セタルモノト謂フコト能ハサルハナリ（破産者カ取得シタル年金權養料請求權後ニ述フル説明參考利益配當請求權等ノ如キ金錢若クハ代替物ノ特定又ハ不特定ノ數量ノ給付ヲ目的トスル每期ノ取立ヲ爲ス權利ハ破産手續終結以後ニ取立ツヘキ給付ト共ニ破産財團ニ屬ス民事訴訟法第六〇四

條第六〇五條獨民訴七三三條第七三四條(二)破産者ニ對シテ交付セラレタル白地ノ引受アリタル手形ハ破産財團ニ屬セ管財人ヨリ振出スコトヲ得何トナレハ引受人ハ完成シタル手形ヲ引受ケタルト同シク責任ヲ負フヘケレハナリ第三ニ收益權カ契約又ハ遺言ニ因リテ設定セラレタルモノナルトキハ將來ニ於ケル收益ト共ニ破産財團ニ屬シ又親族關係ニ基クモノナルトキハ(民法第七九條第八八四條第八九〇條等)破産財團ニ屬セス何トナレハ斯ル權利ハ之ヲ讓渡スルコトヲ得ナリ但シ收益權ノ結果タル利益ハ破産財團ニ屬ス何トナレハ斯ル利益其モノハ之ヲ讓渡スコトヲ得ヘケレハナリ是ヲ以テ配偶者ノ財産上ニ收益ヲ爲ス權アル夫カ破産シタル場合ニ於テハ法律上ノ負擔タル配偶者ノ債務ノ利息ヲ支拂ヒタル殘額ハ破産財團ニ屬シ又此財産上ニ管理權ヲ有スル親カ破産シタル場合ニ於テハ法律上ノ負擔タル子ノ養育費用及ヒ財産ノ管理費用ヲ控除シタル殘額ハ破産財團ニ屬ス第四ニ俸給其他之ニ類似スル繼續收入上ノ債權例(ハ恩給)ハ民事訴訟法ニ從テ差押ヲ爲スコトヲ得ルモノナル以上ハ(民事訴訟法第六一八條獨新民訴八五〇條)將來ニ收入スヘキ部分ト共

ニ破産財團ニ屬スルモノトス(民事訴訟法第六〇四條第六〇五條獨逸舊民事訴訟法第七三三條第七三四條新第八三二條第八三三條獨逸ノ「コレル、フユールマン」氏等ハ茲ニ示シタル法文ヲ以テ以上ノ如ク論結スルヲ正當トシ「ソ、非フヘルド、フツチング」氏等ハ強制執行ハ破産手續ノ如ク特定ノ時期ニ於テ取得シタル財産ニ制限セラレサルヲ以テ茲ニ示シタル民事訴訟法ノ法文ハ以上ノ論結ヲ正當ナラシムルニ足ラスト主張シタル然レトモ余輩ハ理論上個人的執行ニ行ハルハ法則ハ一般的執行ニ關シテモ行ハルルヲ正當ト信スルカ故ニ「ソ、非フヘルド」氏等ノ見解ニ從フヲ得ス俸給ニ關スル債權ニ付テハ「ワ、非ルモスキー」「ソ、非フヘルド」「フツチング」「ベ、イ、ー、ツ、ゼン」氏等ノ説明ニ依レハ俸給ハ給付スヘキ勞務ニ對スル報酬ナルヲ以テ官吏ハ給付シタル勞務ノ割合ニ應ジテ權利ヲ取得スルモノタリ隨テ破産手續終結マテニ於テ取得シタル俸給額ニアラスンハ破産財團ニ屬セスト論結スルコトヲ得サルニアラサルヘシト雖モ余輩ハ之ヲ失當ノ見解ト認ム何トナレハ俸給ハ「ラバント」氏カ國家法ニ於テ明言スルカ如ク勞務ニ對スルノ報酬ニアラスシテ任官ニ伴フラ生スル官吏ノ有スル定期金請求權ナレハナリ

之ニ反シテ雇傭關係ニ基ク報酬ハ破産者カ破産手續終結マテニ於テ服シタル勞務ニ對スル割合ニ應ジテ破産財團ニ對スルモノトス何トナレハ勞務者ハ其服シタル勞務ノ割合ニ應ジテ報酬上ノ債權ヲ取得スルニ外ナラサレハナリ第五ニ破産手續終結以前ニ於テ相續人タル破産者ノ爲メニ相續カ開始シタルトキハ其相續財産ハ破産者カ拋棄ヲ爲ササル場合ニ限リテ破産財團ニ屬ス何トナレハ我民法ハ佛獨等ノ民法ニ於ケルカ如ク相續財産ハ相續ノ開始ヨリ拋棄ヲ爲スコトヲ得ルノ留保ヲ以テ相續人ノ承繼スヘキモノタルコトヲ認メタレハナリ民法第九八六條第一〇〇一條第一〇一七條等相續ノ拋棄又ハ承認ハ相續人ヲ專屬の權利ナルヲ以テ獨逸新破産法第九條ハ相續人タル破産者カ之ヲ爲スヘキモノト規定セリ我商法第九十九條第五ハ佛蘭西商法ニ於ケルト同シク管財人ノ干渉ヲ必要トセリ蓋シ佛蘭西商法ハ相續ノ承認又ハ拋棄ヲ一ノ財産權ニ關スルモノト認メタルヲ以テナリ我商法モ亦然ラン立法上ノ見解トシテハ獨逸破産法ノ立法例ヲ正當ト認ム相續ノ拋棄ハ相續カ之ヲ拋棄シタル者ニ對シ開始セラレサリトノ效力ヲ生スルニ過ヤス故ニ已ニ取得シタル權利ノ

拋棄ニアラスシテ却テ提供セラレタル權利ノ不取得ナリ以上ノ法理ハ遺贈ニ關シテモ適用ヲ見ル所ナリ第一〇一九條第五第六ニ破産者ノ破産手續終結マテニ於テ或ハ破産手續開始ノ當時ニ於テ他人ト財産權ヲ共有シタルトキハ民法第二四九條第二六四條第六六八條第一〇〇二條等破産者ノ持分ノミカ破産財團ニ屬ス故ニ破産手續以外ノ分割其他ノ清算手續ニ依リテ破産者ノ持分ヲ確定セサルヘカラス而シテ破産者ハ破産財團ニ屬スル自己ノ財産ニ付キ處分スルノ權ナキヲ以テ持分確定ノ手續ニ於テモ亦管財人ニ依リテ代表セラル獨逸舊破産法第一四條第一六條第七ニ破産者カ營業ノ結果トシテ生活費用ノ外ニ尙ホ幾分ノ財産ヲ取得セタルトキハ其財産ハ破産財團ニ屬ス破産宣告ハ一ノ禁治產ノ宣告ニアラス又破産債權者ヲ害スル所ナキヲ以テ破産者カ自己及ヒ家族ノ生計ヲ維持シ且ツ復權ノ準備ヲ用意スルカ爲メニ職業ヲ營ムコトハ法律ノ禁止セサル所ナリ是ヲ以テ破産者カ生計費ノ外ニ尙ホ財産ヲ取得スルコトアルハ當然ナリ然レトモ不當利得ハ法律ノ許ササル所ナルカ故ニ營業上負ヒタル債務ハ前示ノ財産ニ付キ破産債權者ヨリ先ニ支拂ハルルモノトス之ヲ換言ス

レハ營業上ノ純益ノミカ破産財團ニ屬スルモノト謂フヘシ第八ニ破産手續繼續中時間ノ經過及ヒ發育ノ結果ニ因リテ從來ノ財産ヨリ生シタルモノ又ハ之ニ代ハルヘキ總財産ハ破産財團ニ屬ス殊ニ破産財團ヨリ生シタル果實產出物又ハ利得埋藏物ノ如キ資金及ヒ利息破産財團ニ屬スル債權ノ履行ノ結果タル給付取得時効ノ完成ノ如キ財産取得ノ希望ノ實現トシテ取得シタル財産破産財團ニ屬スル財産ノ竊取又ハ損害ニ因リテ生シタル賠償請求權破産財團ニ屬スル財産ノ賣却ヨリ生シタル金錢其他管財人カ破産財團ノ爲メニ爲シタル法律行為ヨリ生シタル財産等ハ皆破産財團ニ屬ス(「フツルシグ」氏ハ已ニ進行シタル取得時効ノ完成ニ依レル財産取得ノ希望ノ如キモノハ相續人ニ移轉スルヲ以テ財産ノ成分ヲ爲スヲ理由トシ破産財團ニ屬スルモノナリト主張シタリ余輩ハ此點ニ付テ疑ヲ存ス)

(二) 強制執行ノ目的タルコトヲ得ル財産

強制執行ノ目的タルコトヲ得ル財産ニアラスンハ破産財團ニ屬セス何トナレハ破産ハ一ノ強制執行ナレハナリ如何ナル財産カ強制執行ノ目的タルコト

勤勞ト爲ルヘケレハ雇主ノ爲メニハ即チ外界ノ財貨ナリ是レ特ニ腕力ノミニ限ルニアラス性質藝能等ニ付テモ亦同様ニ論セサルヘカラス而シテ性質ニテ云ヘハ正直ナルカ爲メニ或銀行ノ金庫番ヲ爲スカ如キコトアラハ其正直ナル性質カ銀行ニ取リテハ外界ノ財貨タリ

第二 外界ノ財貨一ニ之ヲ有形ノ財貨ト曰フ(一)

(一) 此種ノ財貨ヲ稱シテ有形ノ財貨ト曰フハ穩當ナラス何トナレハ此種類ノ財貨中ニモ亦無形ノ財貨アリ得ヘケレハナリ故ニ余ハ特ニ之ヲ外界ノ財貨ト名ケタリ

外界ノ財貨トハ吾人人類ヲ圍繞スル外界ノ一部分ニシテ探リテ以テ吾人ノ用ニ供シ吾人ノ欲望ヲ滿スニ適當ナルモノナリ故ニ其有形ナルト無形ナルトヲ問ハス尙モ宇宙間ニ現存セ人間(勿論人格ヲ供ヘタル人間ノミヲ曰フ)以外ニ在リテ人間ノ用ヲ爲スニ足ルモノハ總テ外界ノ財貨タラサルハナシ從テ外界ノ財貨ヲ名ケテ有形ノ財貨ト曰フハ過レリ有形ノ財貨ハ之ヲ外界ノ財貨ニ似テ而シテ非ナルモノト謂ハサルヘカラス(二)

(乙) 外界ノ財貨トハ吾人人類ヲ圍繞スル事物物殆ト皆是ナリ宇宙ノ森羅萬象皆多少此性質ヲ具ヘサルナシ故ニ苟モ探リテ以テ吾人ノ欲望ヲ滿スノ用ニ供スルコトヲ得ルモノハ之ヲ稱セテ外界ノ財貨ト曰フヘキナリ然レトモ人類ニシテ人格ヲ備ヘサルモノハ生理的ニハ勿論人類タルモ經濟學上ノ所謂財貨ナリ換言スレハ真正ナル人間以外ニ於ケル森羅萬象ヲ稱シテ有形ノ財貨トハ曰フナリ

外界ノ財貨ヲ細別セテ二ト爲ス即チ甲自由財貨乙經濟上ノ財貨是ナリ

(甲) 自由財貨或ハ之ヲ非經濟上ノ財貨トモ曰フ(乙) 自由財貨トハ人類ノ勞働ニ故ニ或ハ之ヲ經濟上ノ財貨ニ對シテ平仄ヲ合ハサムカ爲メニ非經濟上ノ財貨ト曰フ者アリ此語ハ意味ヲ現ハスニハ稍適當ナルヘキモ未タ以テ完全ナリト爲スヲ得ス寧ロ原語ヲ直譯シテ自由財貨ト名クル方優レリ元來自由財貨ニ對スル原語夫レ自身カ已ニ適當ナラサル語ナレトモ多數ノ學者カ久シク之ヲ使用シ居ルカ故ニ今日ニ至リテハ之ヲ聞キテ何人モ怪

ム者ナシ故ニ自由財貨ヲフ語モ新シク且ツ奇ナルニ拘ラス之ヲ慣用スレハ奇異ノ感自ラ消失スルニ至ラン維新以來歐洲ノ學問カ輸入セラレテヨリ此ノ如キ例ハ屢遭遇スル所ナリ例ヘハ法律上ニ於テ權利ヲフ語ノ始メテ出來タルトキハ非難ノ聲喧セテ以テ法律上ノ用語ト爲スニ足ラストスル者サヘアリタルモ慣用ノ久シキ今日ニ於テハ誰一人トシテ惟ム者ナキニ至レリ而シテ非經濟上ノ財貨ヲフ語モ適當ナラサルノミナラス其他ニモ適當ノ用語ナキヲ以テ余ハ斷然自由財貨ヲフ語ヲ用フル事トセリシ若クハ他ニ報酬ヲ與フルヲ要セスシテ分量ノ大小如何ニ拘ラス自由自在ニ使用セ若クハ獲得シ得ヘキモノヲ曰フ空氣光線等ノ如キ即チ是ナリ(一)(二) 自由財貨トハ人カ身體又ハ精神ヲ勞スルコトナク他ニ報酬ヲ與フルコトヲ要セスセテ自身ノモノトシテ獲得スルコトヲ得如何程多クノ分量ヲ使用シ獲得スルモ何人モ管メサルモノヲ云フ吾人ノ使用スル空氣光線ノ如キ即チ是ナリ然レトモ此等ノ自由財貨ト雖モ或特別ノ場合ニハ自由財貨タルヲ得サルコトアリ即チ潛水器ノ使用者カ呼吸スル空氣ハ一時自

由財貨タルノ性質ヲ失ヘルモノナリ例ヘハ軍艦沈没シ潜水者ヲシテ之ヲ引揚ケシムル時ノ如キハ潜水者ノ使用スル空氣ハ之ヲ大氣ノ中ヨリ輸送セサルヘカラサルヲ以テ二條ノ管ヲ用ヒ其一端ヲ口及ヒ鼻ニ符入シ一ハ空氣ヲ呼吸スルノ用ニ供シ一ハ之ヲ吐出スルノ用ニ供シ而シテ管ノ他端ニ唧筒ノ如キ器械ヲ裝置シ此器械ノ運轉ニ據リ潜水者ヲシテ絶エス新鮮ナル空氣ヲ吸入スルヲ得セシムルナリ故ニ此場合ニ於ケル空氣ハ勞力ト資本トヲ要シ且ツ之ヲ輸送スル分量ニモ自ラ限リアルヲ以テ此限リアル空氣ハ自由財貨タルノ性質ヲ失ヒ經濟上ノ財貨ト爲ルモノナリ又光線モ之ヲ理化學上ノ實驗ニ用フルトキハ經濟上ノ財貨ト爲ルコトアリ即チ物理學上ノ實驗ニ據リテ光線ノ七色ヲ分析シ若クハ之ヲ湊合スル場合ニ於テハ暗室ヲ作り針小ノ孔ヲ穿テ一條ノ光線ヲ入ルルノミニテ他ノ光線ノ侵入ヲ防クノ仕掛ヲ要スルコトアルヲ以テ是ニモ幾多ノ資本ト勞力トヲ要シ又其使用スル光線ニ限リアルヲ以テ潜水者ノ空氣ト同様ニ此場合ノ光線モ亦自由財貨タルノ性質ヲ失ヒテ經濟上ノ財貨ト爲ルナリ然レトモ

空氣光線ハ經濟上ノ財貨ト爲ルハ例外ノ場合ニシテ普通ノ場合ニ於テハ此二者ハ共ニ自由財貨タルモノナリ

自由財貨ニモ亦二種アリ(イ)絕對的自由財貨(ロ)相對的自由財貨即チ是ナリ

(イ)絕對的自由財貨トハ極メテ非常ナル例外ノ場合ヲ除ク外自由財貨タルノ性質ヲ失ハサルモノナリ空氣光線ノ如キハ元來此種類ニ屬シ唯例外ノ場合ニ人爲ヲ以テ故ラニ一時自由財貨タルノ性質ヲ失ハシムルコトアルノミ(II)

(ロ)絕對的自由財貨ト雖モ如何ナル場合ニモ其性質ヲ失ハスト曰フヲ得ス前ニ述ヘタル空氣光線ノ如キ自由財貨モ人爲ヲ以テ一時自由財貨タルノ性質ヲ失ハシムルコトアリ但シ二者ハ共ニ此等ノ例外ノ場合ヲ除クノ外時ノ古今海ノ東西ヲ問ハス常ニ自由財貨タルモノナリ

(ロ)相對的自由財貨トハ場所ノ異ナリ歲月ノ經過スルニ從ヒ自由財貨タルノ性質ヲ失フニ至ルコトアルモノヲ口ヲ土地ノ如キハ此種類ニ屬スルモノナレトモ方今已ニ多クノ國ニ於テ自由財貨タルノ性質ヲ失フニ至レルモ

ノナリ往昔未開ノ社會ニ在リテハ土地ハ全ク自由財貨ニシテ交換價值ヲ有セザリキ故ニ人人皆自由ニ之ヲ占領シ得ヘク社會ハ未ダ其ニ私人若クハ共同團體ノ特ニ所有シ得ヘキモノタルヲ認メザリキ(二)然ルニ時勢(三)相對的自由財貨トハ人爲ノ作用ニ由リ自由財貨タルノ性質ヲ失フニ至ルモノニアラスシテ時代若クハ場所ノ異ナルニ依リテ其性質ヲ自然ニ失フモノヲ曰フ故ニ或場所若クハ或時代ニ在リテハ自由財貨タルモ他ノ場所若クハ他ノ時代ニ在リテハ自由財貨タルヲ得サルモノナリ財貨中此種類ニ屬スルモノハ許多アルモ就中土地ハ最モ著シキモノナリ蓋シ古昔ニ在リテハ土地ハ何人モ金錢ヲ出シテ之ヲ買取ルノ思想ナク空氣光線ト同シク何人カ自由ニ使用シ占領スルモ之ニ向テ容喙故障ヲ爲スナカリシモノナリ即チ當時ニ在リテハ土地ノ一私人又ハ共同團體即チ社會全體ノ所有ニ屬ストノ制ヲ認メザリシナリ今日ニテモ亞非利加ノ内地又ハ太平洋ノ中央ニ在ル小嶋ノ如キニ在リテハ太古ノ有様ト同シク土地ハ何人ニテモ之ヲ自由ニ使用シ占領スルコトヲ得ルナリ

ノ變遷ニ從ヒ土地モ亦漸漸共同團體ノ所有又ハ一私人ノ所有ニ歸スルニ至レリ是ニ於テ乎土地ノ所有權ナルモノ認メラレ其代價モ生シ勞働ヲ爲シ又ハ一定ノ報酬ヲ與フルニアラサレハ之ヲ取得スルコト能ハサルニ至リ遂ニ今日ニ於テハ土地ハ實ニ諸種ノ財貨中最モ高價ナルモノノ一ト爲レリ而シテ事ノ茲ニ至レルハ何等ノ人爲ノ手段方法ニ因ルニアラス唯土地カ時勢ノ變遷ニ從テ自然ニ自由財貨ノ區域ヲ脱シタルニ過キス(四)
(四) 前ニモ述ヘタルカ如ク太古土地ハ何人モ之ヲ自由自在ニ使用スルヲ得ルモノナリシコトハ社會學上誠ニ明瞭ナル事實ナリ然ルニ時勢ノ變遷ニ從ヒ人口モ増加シ土地ノ人ニ與フル利益モ一般ニ知ラレ遂ニ土地ノ所有權ナルモノ認メラルコトト爲レリ而シテ土地所有權ノ發達ヲ觀ルニ土地ハ初メ共同所有權ノ目的物ニシテ一私人ノ土地所有權ナルモノハ認メラレス即チ一部落又ハ部落ノ内ノ小團體ノ所有ニ屬セリ今日ニテ云ヘハ一郡又ハ一町村ノ所有ト云フト同一ニテ個人ハ之ヲ所有スルヲ得ザリシモ時勢ノ變遷ニ依リ漸漸個人ノ所有ニ屬スルニ至

レリ隨テ土地ニ價ヲ生シ荷モ土地ヲ使用セント欲セハ勞力ヲ爲シ又ハ一定ノ報酬ヲ與フルヲ要スルコトト爲リ遂ニ今日ニテハ土地ハ財貨中最モ高價ノモノノ一ト爲レリ即チ太古ニ在リテハ自由財貨タリシ土地カ今日ニテハ經濟上ノ財貨ト爲ルニ至レリ故ニ文明ノ程度進ムニ從ヒ土地ハ其價ヲ増スモノナリト謂ハサルヘカラス我國ニテモ維新以前ニ在リテハ横濱ノ如キ於テハ土地ノ價甚タ卑カリシモ今日ニテハ其價大ニ騰貴シ土一坪ノ價金一坪ニ相當スト曰フモ過言ニアラサルニ至レリ然レトモ横濱ノ繁盛モ英京倫敦杯ニハ及ハサルヲ以テ土地ノ價モ亦隨テ倫敦ニ於ケルカ如ク高貴ナラサルナリ此ノ如ク土地ノ價ハ文明ノ進歩ト正比例ヲ爲スモノナリト謂ハサルヘカラス然リ而シテ自由財貨中相對的ノモノハ獨リ土地ノミニ限ラス土地ハ單ニ其最モ著シキモノタルノミ彼ノ原野ニ生スル草根木皮ノ如キモ昔日ニ在リテハ何人モ自由自在ニ之ヲ獲得スルヲ得タルモノナレトモ之ヨリ藥品ヲ製出スルニ至リタルト人口ノ増加ノ爲メ需用ノ増シタルトニ因リ此等モ亦價ヲ有スル

コトト爲リ遂ニ自由財貨タル性質ヲ失ヒタルモノナリ此他禽獸蟲魚皆多少然リ此相對的自由財貨ハ絕對的自由財貨ト共ニ財貨ノ種類トシテハ之ヲ舉クサルヲ得ナレトモ進ミテ種種ノ經濟上ノ問題ヲ考究スルモハ自由財貨ニ遭遇スルコトハ稀ナリ但シ方今既ニ經濟上ノ財貨ト爲リ居ル土地ハ此限ニ在ラス而シテ經濟上最モ必要ナルモノハ經濟上ノ財貨ナリ就中其中ノ有形ノモノ即チ貨物ナリトス

(乙) 經濟上ノ財貨或ハ之ヲ經濟的財貨ト曰フ(乙) 經濟上ノ財貨トハ吾人類惹起スノ恐アルヲ免レス故ニ余ハ的ノ字ニ代フル上ノ字ヲ以テ經濟上ノ財貨ナル語ヲ用フルコトトス

(二五) 經濟的財貨ト曰フコトキハ開ク者皆德用向キノ財貨ナルカ如キ或ヲ圍繞スル外界ノ區劃サレタル一部分ニシテ人爲ニ依リテ人々ノ欲望ヲ充タスニ適當ナル形體ヲ得又ハ之ニ適當ナル地位ニ置カレ而シテ後始メテ財貨タルノ性質ヲ得ルカ或ハ斯クシテ財貨タルノ性質ニ増加サル所アルモノヲ曰フ(乙) 經濟上ノ財貨ハ通常外界ノ區劃サレタル一部分ニシテ吾人類

二六 宇宙ノ森羅萬象悉ク皆吾人人類ヲ圍繞スル所ノモノヲラサレハナシト雖モ其中ニ就キ經濟上ノ財貨タルモノハ單ニ其一部分ナリ即チ特ニ限ラレタル外界ノ一部分ニ過キス此外界ノ一部分ハ或ハ人間ニ都合善キ形ニテ存在シ又ハ都合宜シカラサル形ニテ存在ス之ニ人ノ所爲ヲ加ヘテ人ノ欲望ヲ充タスニ適當ナル形態ノモノト爲シ又ハ適當ナル地位ニ置キテ始メテ財貨タルノ性質ヲ得セシメ或ハ之ニ依リテ財貨タルノ性質ヲ増加スルコトヲ得ルモノヲ稱シテ經濟上ノ財貨ト曰フ而シタ人爲ニ依リテ財貨タルノ性質ヲ得又ハ財貨タル性質ノ増加サルルニハ形ヲ變スルコトアリ場所ヲ轉スルコトアリ先ツ人爲ニ依リテ適當ナル形ヲ得ルモノノ例ヲ舉クレハ銅又ハ鐵ノ如キモノ即チ是ナリ此等ノ物ハ其自然ノ有様即チ鐵山ニ在リテ銅鐵鐵タルトキハ其儘ニテハ全ク人ノ欲望ヲ充タスコト能ハス或ハ充タスコトアルモ誠ニ僅少ナリ骨董師杯ノ間ニ在リテハ奇形ナル礦物ヲ愛シ或ハ之ヲ賣買シテ其欲望ヲ充タスコトアルヘキモ此以外ノ人ニ取リテハ斯ル礦物ヲ愛スル者ナシ然ルニ之ヲ精製シテ家具又ハ銅線

ト爲ストキハ之ニ依リ人ノ欲望ヲ充タスコト鮮少ナラス餘ニ文明的交通機關ノ一タル電線ノ如キハ專ラ銅線ヲ用フルモノトス又鐵ノ如キモ之ト同様ニシテ礦物ノ儘ニテハ殆ト全ク用ヲ爲ササルモ之ヲ精製シテ機關車ヲ作リ又ハ鍛鍊シテ名刀ト爲ス時ハ其功用偉大ナルモノアリ而シテ此等ノモノカ形ヲ變スルトキハ必スシモ場所ヲ移轉スルモノト云フヲ得サルモ多クノ場合ニ於テハ同時ニ場所ヲ移轉スルモノナリ即チ鐵山ヨリ銅鐵礦ヲ採リ來リテ之ヲ精製スルトキノ如キ是ナリ然レトモ此所ニハ説明上便宜ノ爲メ兩者ヲ區別シテ說カン外界ノ一部分カ場所ヲ替フルニ因リ財貨タルノ性質ヲ得又ハ其性質増加サルトキノ例ヲ舉クレハ珊瑚珠又ハ眞珠カ海底ニ在ル時ハ船ヨリ之ヲ望視スレハ光輝燦爛トシテ美ハ即チ美ナレトモ幾千尋ノ海底ニ在ル儘ニテハ何等ノ用ヲ爲スコトナシ時ニ或ハ好奇家アリテ海上ヲ航行スル都度望遠鏡ニテ之ヲ望視シ以テ其一種ノ欲望ヲ充タスコトナシトセサルモ一般ノ人ハ此ノ如キコトニテハ何等ノ欲望ヲ充タスコト能ハス即チ或例外ノ場合ニ於テハ海底ニ在ル儘ニテ欲望

ヲ充タスコトアルモ一般ニハ欲望ヲ充タスコトナシ然ルニ之ヲ海中ヨリ
引キ上タルトキハ高貴ノ價ヲ有スルニ至ル而シテ珊瑚珠ハ或ハ人爲ニ欲
リタ形ヲ變スルコトアルモ眞珠ニ至リタハ形ヲ變スルコトナシ此等ノモ
ノハ例外ノ場合ニハ天變地異ニ因リテ場所ヲ轉スルコトナシトモナルモ
普通ノ場合ニハ人爲ニ依リテ引上ケラルルモノナリ且ツ此等ノモノハ固
ヨリ外界ノ一部分ニシテ而モ限リアルモノナレハ均シク外界ノ一部分タ
ル空氣ノ如キ無限ノモノトハ大ニ異ナレリ以上ノ如キモノヲ指シテ經濟
上ノ財貨ト曰フ
自由ニ左右セザル若クハ利用スルコトヲ得ルモノヲタルヘカラス之ヲ換言
スレハ通常一個人ノ所有權ノ範圍内ニ屬スヘキモノヲタルヘカラス(七)
(七) 經濟上ノ財貨ハ勞働シ若クハ他ニ報酬ヲ與フルニ因リテ之ヲ占有
スルコトヲ得且ツ之ヲ自由ニ左右シ又ハ利用スルコトヲ得ルモノナレト
モ間ニ之ヲ利用シ使用スルコトハ出來ルモ全ク自由ニ左右スルヲ得サル
モノニシテ尙ホ且ツ經濟上ノ財貨タルモノアリ例ヘハ土地ノ如キハ經濟

上ノ財貨ナルモ自由自在ニ形ヲ變シ即チ或ハ球形ノモノト爲シ或ハ方形
ノモノト爲スコトハ出來サルナリ若シ球形又ハ方形ト爲ストキハ普通ノ土
地タルヲ得ス然レトモ土地ノ如キモノト雖モ勞働若クハ他ニ報酬ヲ與
ルニ因リテ得タル上ハ之ヲ利用スルコトヲ得ルモノナリ但シ法律ヲ以テ
利用ヲ制限スルトキハ格別ナリ而シテ又經濟上ノ財貨ハ一個人ノ所有權
ノ範圍内ニ屬スルモノナルヲ要スレトモ或國ニ於テハ所有權ヲ認メサル
モノニシテ尙ホ經濟上ノ財貨タルノ性質ヲ他ノ點ニ於テ備ヘ之ヲ經濟上
ノ財貨ト名クルノ外致方ナキモノアリ故ニ經濟上ノ財貨ハ一個人ノ所有
權ノ範圍内ニ屬スルモノタルヲ要スルハ普通ノ場合ニシテ是ニハ例外ア
ルコトヲ知ラサルヘカラス尙ホ此點ハ後ニ至リテ詳述セシムル所ナリ
經濟上ノ財貨ハ又人爲ニ依リテ始メテ其重ナル性質ヲ具有スルニ至ルモノ
ナレハ常ニ勞力ニ據リテ起リ勞力ナケレハ之アルコトナシト曰フヲ可ナリ
但シ同一ノ勞力ハ必スモ同一ノ財貨又ハ利用ヲ生セス同一ノ財貨又ハ利
用往往異種ノ勞力ニ因リテ起ル故ニ經濟上ノ財貨ノ起源ハ種種様様ノ勞力

ニ在リ先占ノ如キ容易ナル勞力ノミニ因リテ財貨ノ生スルコトモアレハ日
夜刻苦シテ勞働セサレハ財貨ノ生セサルコトモアリ唯何レノ經濟上ノ財貨
モ皆勞力ヲ要スルノ點ニ於テハ相一致スルノミニ此理由ト有限ノ性質ヲ
二〇 前ニ述ヘタルカ如ク經濟上ノ財貨ハ其重ナル性質即チ人ヲ欲望ヲ
充タスノ性質ヲ人爲ニ依リテ得ルモノナリ故ニ勞力アリテ始メテ經濟上
ノ財貨ハ財貨トシテノ價ヲ十分ニ備ヘ得ルモノナルヲ以テ大體ヨリ云ヘ
ハ經濟上ノ財貨ハ勞力ニ因リテ成ルト云フヲ得ルナリ然レトモ同一ノ勞
力ハ同一ノ經濟上ノ財貨ヲ生セス又同一ノ勞力ハ必スシモ同一ノ利用
ヲ生セス例ヘハ人力車夫カ客ヲ乗セテ同一ノ道程ヲ行クモ十錢ノ賃金ヲ
得ルコトアリ又二十錢ノ賃金ヲ得ルコトアリ車夫ノ得タル賃金ハ二ツノ
場合ニ於テ等シク財貨タルノ點ニ於テハ同一ナルモ其得タル金額ノ多少
即チ十錢ト二十錢トハ大ニ其利用ヲ異ニスルモノナリ此ノ如ク同一ノ勞
力ヲ施スモ同一ノ結果ヲ生セサルハ乘客ノ貧富及ヒ其他種種ノ事情ニ由
ルモノニシテ若シ車夫カ勞力ヲ施スニ當リ常ニ總テノ事情同シカリセハ

同一ノ結果ヲ生スルコトヲ得ヘキモ此ノ如キハ殆ト稀有ノ事タリ人間界
ニ於ケル原因結果ノ關係ハ物理界ニ於ケルモノトハ大ニ異ナレリ物理界ニ
於テハ同一ノ原因アレハ必ス同一ノ結果ヲ生スルモ人間界ニ在リテハ同
一ノ原因アルモノ之ニ伴フ周圍ノ事情時ニ由リ大ニ異ナレハ必スシモ同一
ノ結果ヲ生セス而シテ又同一ノ利用同一ノ財貨モ異ナリタル勞力ニ因リ
テ生スルコトアリ例ヘハ均シク十錢ノ賃金ヲ得ルニモ新聞紙ノ配達ニ因
リテ得ルコトアリ人力車ヲ挽キテ得ルコトアリ是レ恰モ物理界ニ在リテ
點ナルモノカ必スシモ同一ノ原因ニ由リテ生セス或ハ摩擦ニ因リ或ハ單
純ナル運動ニ因リテ生スルコトアルカ如シ而シテ財貨ヲ得ルニ最モ容易
ナル勞力ハ先占ニシテ之ヲ大ナル勞働ヲ爲シ汗水ヲ流シテ始メテ財貨ヲ
得ルニ比スレハ大ナル差異アリ此ノ如ク財貨ノ成立スルニハ其種類ニ由
リ種種ノ事情ニ由リテ勞力ノ難易ニ非常ノ差異アルモ勞力ヲ要スルノ點
ニ至リテハ皆相一致セリ

有スルトヨリシテ經濟上ノ財貨ハ不法ニ之ヲ獲得スル場合ノ外常ニ自ラ勞

動スルカ或ハ他ニ報酬ヲ與フルカ然ラサレハ他人ヨリ無代價ニテ讓與サルルニアラサレハ決シテ之ヲ得ヘカラサルナリ

經濟上ノ財貨ニ三種ノ別アリ即チ(イ)貨物ロ入の財貨ハ有關係ノ三者是ナリ(イ)貨物トハ一ニ之ヲ有形ノ經濟的財貨ト稱シ吾人人類ヲ圍繞スル外界ノ區劃サレタル一部分ノ重ナルモノニシテ常態トシテ財貨タルノ性質ヲ有ス

ルモノナリ是レ財貨ノ最モ普通ナルモノニシテ經濟學上最モ多ク用ヒラレ或意味ニ於テハ最モ重キヲ置カサルヘカラサルモノナリ通常ノ商品珍奇ノ美術品食品製造品等ノ如キ皆是ナリ(ニ) 美術品ノ美術品タル所以ハ商品ノ如ク有形ナル物件其物ニアラ

スシテ高尚ナル理想ニ存スルモノナレトモ有形ノ物件ト離ルヘカラサルカ故ニ是レ亦貨物ナリ此等ノモノハ其通常ノ有様ニテ貨物タルモノニシテ有關係ノ如キ一時財貨タル性質ヲ有スルモノトハ同シカラス即チ此等ノ物カ貨物タル性質ヲ失フトキハ其モノノ消滅スルトキニ限ルモノナリ此貨物ハ經濟學上最モ多ク遭遇スル所ノモノナリ然レトモ

(一) 上ノ負擔ヲ增加スルニ至ルコトニ對シテ經濟學上ノ理由

(イ) 私經濟ノ行動ハ密着ノ利害關係ヲ有スル當事者ノ敏活ナル行動ニ

依ラスンハ之カ生産ヲ大ニスルコト能ハサルコトハ其利益ヲ得ルモノ

(ロ) 官有土地ノ經營ハ土地ノ生産力ヲ潤滑シ一般ノ通弊タル保守的政策ノ下ニ之カ充分ノ改良進步ヲ期シ難キコト

(三) 政治學上ノ理由

(イ) 土地ノ主體タル國家ト公共經濟ノ主體タル國家ト利害ノ衝突ヲ來

シ又政府ト一般地主間ニ於テ不法ノ競争ヲ來スコト土地ノ主體タル

(ロ) 官有土地ノ收入巨額ニ上ルトキハ議會ノ財政上ノ制限及ヒ監督ヲ受クヘキ範圍比較的縮少セラルルヲ以テ政府ノ專權ヲ助長スルニ至

(乙) 相對ノ理由

(一) 消極的政策トシテ官有財產ノ拂下ニ依リ害毒ノ大ナル租税ノ廢止重

(一) 稅率ノ輕減公債ノ償還其他ノ費途ニ充ツヘキコト大ニ關係スルモノナリ
(二) 積極的政策トシテ官有財產ノ拂下ニ依リ尙ホ必要ニシテ且ツ有利ナル事業ノ設備經營ニ充ツヘキコト

第二

(甲) 官有土地保存論

(一) 財政上ノ理由
反對論者ノ財政上ノ非難ハ少クトモ地方團體ノ公有土地ニ對シテ該當セザルノミナラス近時小作法其他各種ノ方便ニ依リ之カ弊害ヲ除去スルニ至リタルヲ以テ所謂反對論者ノ財政上ノ非難ハ却テ民有ノ大農制ニ於テ其大ナルヲ見ルコト

(二) 官有土地ノ價額及ヒ收入ハ文化ノ進歩ト人口ノ増加ニ伴ヒ年々遞増スルモノナルヲ以テ官有土地ノ拂下ヲ爲スハ目前ノ小利ヲ得ルカ爲メニ將來ノ大利ヲ捨ツルモノナルコト
(三) 所謂官有土地ノ社會ニ及ホス不便不利ト稱セラレルモノハ租稅ニ比シテハ少キコト固ヨリ論無ク若シ之カ管理宜シキヲ得ンニハ積極ニ關

家ニ一ノ財源ヲ造リ延テ國民ノ負擔ヲ減少スルモノタルコト

(四) 官有土地ハ政府ノ信用ヲ維持スル方便ニシテ公債ノ募集其他ノ信用取引ヲ容易ナラシムルコト

(乙) 經濟上ノ理由

(一) 軍事上又ハ勸業上ノ目的ヨリ官有土地ヲ必要トスル場合多ク殊ニ農業ノ模範トシテ特種ノ農業ノ改良發達ヲ來スコト

(二) 大農制殊ニ大地主ノ下ニ在ル不生產ナル請負制度ノ弊害少ナキコト政治上ノ理由

(丙) 小作制度改良ノ先驅ト爲リテ一般ノ農業ノ制度組織ノ改良ヲ來スコト
(二) 元首ノ所得ニ對シ獨立ノ財源ヲ造ルコト

(三) 社會政策上大地主制ノ弊害ヲ除去シ自作農夫ノ扶植ヲ來スコト
上述スルカ如ク官有土地保存ノ可否ハ一利一害ニシテ到底之ヲ簡簡ノ事實問題ニ讓ルノ外ナキモ一方ニハ新ニ官有土地ヲ買上タル必要ナキト共ニ又一方ニハ官有土地ノ經費多キニ過クルモノハ又強ク之ヲ保存スルノ必要ヲ見ス但

シ土地拂下ノ場合ニハ其土地ノ廣狹拂下ノ時期等ニ付キ總テ慎重ナル措置ヲ採リ可成數多ノ自作農夫ニ拂下ルコトヲ要スルハ既ニ上述スル所ノ如シ

第二節 官有森林

第一款 官有森林ノ意義

森林トハ樹木ノ繁茂セル地面ヲ指スモノナレトモ英吉利及ヒ獨逸等ニ在リテハ特ニ君主カ狩獵ノ目的物即チ鳥獸等ヲ保存スルカ爲メニ領有スル地面ヲ指シテ森林ト稱スルコトアリ然レトモ茲ニ所謂森林トハ樹木ノ繁茂セル土地ヲ指スモノニシテ其政府ノ所有ニ屬スルモノヲ官有森林ト云フ

森林ハ其標準ノ異ナルニ從ヒ各種ノ分類ヲ爲スコトヲ得ヘシ即チ其所在地ノ狀況ヲ標準ト爲ストキハ之ヲ山林及ヒ平林ニ分ツコトヲ得ヘク其土地ノ性質ヲ標準ト爲ストキハ絕對的森林及ヒ相對的森林ト爲スコトヲ得ヘク其森林ノ效用ヲ標準ト爲ストキハ收入林又供用林施業林トモ云フ及ヒ保安林又保存林保護林トモ云フニ分ツコトヲ得ヘク其所有權ノ所在ヲ標準ト爲ストキハ御料

林國有林部分林公有林社寺林及ヒ私有林ノ六種ト爲スコトヲ得ヘシ(明治三十二年法律第四十六號森林法參照)

森林ノ效用ハ直接ニハ木材薪炭等ノ主產物樹液果實菌叢等ノ副產物ヲ無限ニ生産シ得ヘキノミナラス間接ニハ土砂ノ壞崩流出及ヒ飛砂塵雪塵石風水海潮等ノ災害ヲ豫防シ水源ヲ涵養シ風土氣候ヲ調和シ山水ノ風致ヲ保存スル等森林ノ經營ハ公共ノ利害ニ重大ナル關係ヲ保持スルヲ以テ(森林法第八條參照)私人ノ不能ノ欲望ニ屬スヘキ場合尠カラサルノミナラス又私人ノ可能ノ欲望ニ屬スルモ森林其者ノ本來ノ目的ハ相對的の不正ノ欲望又ハ私人ノ満足スルコトヲ欲セサル欲望亦多シトス所謂一部ノ論者カ森林ヲ官有ト爲スヘシト云ヒ延テ森林收入ハ公經濟收入ナリト論シ又ハ森林ハ國ノ公產ナリト論スル者アルニ至ルハ要スルニ森林ノ間接效用著大ナルニ基因セリ

第二款 官有森林ノ利害

森林ヲ官有ト爲スヘキ理由ハ一言ニシテ之ヲ蔽ヘハ森林事業ハ公益事業ナリ

ト云フニ外ナラス故ニ之カ是非ハ第一國家カ森林ノ經營ニ當レル場合ニ於ケル效果第二純然タル利己心以外ノ勸念カ森林ノ所有者ニ及ホス勢力即チ私人ノ行爲ニ依リテ障害セラルル公益ノ分量ノ二點ヲ決スルヲ以テ足レリトス

第一消極ノ理由 森林官有ノ消極の理由トハ森林ヲ官有ト爲スモ私人カ森林ヲ經營スル場合ニ比シテ毫モ其直接及ヒ間接ノ效果ヲ削減スルコトナキノミナラス森林經營本來ノ目的ハ却テ官業ニ適當ナルモノニシテ之ヲ總論財政ノ範圍ノ章ニ對スレハ正ニ私人ノ不能ニ屬スル正當ノ欲望及ヒ私人ノ可能ニ屬シテ私人ノ一般ニ満足スルコトヲ欲セサル正當ノ欲望ノ二者ヲ包含スルコトヲ謂フモノナリ今森林ヲ官有ト爲スヘキ消極の理由ヲ細別スレハ次ノ如シ

(甲) 森林事業ハ疎放のナルコト 森林ノ事業即チ樹木ノ扶植培養及ヒ採伐ハ素ヨリ營林ノ學識ト經驗トヲ要スルモ農業ノ如ク集約のニシテ複雜ナル勞力ヲ要スルモノニアラス隨テ政府カ之ヲ經營スルニ當リテ毫モ官有土地管理ニ就テ受クルカ如キ非難ヲ生スルノ憂ナク却テ直接管理法ヲ以テ便宜ト爲ス所ナリ是レ官有土地ノ管理ノ非難ハ主トシテ耕地ノ性質ハ私人カ小仕掛ニ依リ

テ熱心ナル熱練ト注意トヲ要スヘキニ基因スルニ反シ森林ノ性質ハ私人ニ於テモ所謂小仕掛ノ經營ヲ許ササルモノナレハナリ

(乙) 森林ノ事業ハ巨額ノ資本ヲ要スルコト 森林事業カ巨額ノ資本ヲ要スル主トシテ次ノ三理由ニ基ケリ

(1) 森林ノ利潤ハ他ノ事業ニ比シテ些少ナルコト

(ロ) 森林ノ收穫ハ長年月ヲ要スルコト

(ハ) 森林ノ生産物ハ之ヲ市場ニ運搬スル爲メ交通機關ノ設備維持及ヒ之カ

運送ニ付キ巨額ノ費用ヲ要スルコト

第二 積極ノ理由 森林官有ノ積極の理由トハ森林ハ之ヲ民有ト爲スヘカラサル場合多キノミナラス之ヲ官有ト爲スコトハ財政上利益多キノミニシテ之ヲ總論財政ノ範圍ノ章ニ對スルハ私人ノ可能ニ屬スル相對的不正ノ欲望ト見ルヘキ所以ヲ指スモノナリ今森林ヲ官有トスヘシトノ積極の理由ヲ大別スレハ次ノ如シ

(甲) 森林事業ハ公益上官有ト爲スヘキコト 森林事業ハ巨額ノ資本ヲ要スル

ニ拘ラス之カ收穫ニ長年月ヲ要スヘキコトハ既ニ上述スル所ノ如シ故ニ之ヲ私人ノ修理ニ委スルトキハ一時ノ私益ヲ先ニシテ永久ノ公益ヲ後ニスルノ弊最モ其著シキヲ見一方ニハ苗樹ノ植付及ヒ培養ヲ怠ルノミナラス一方ニハ採伐ノ場所時期及ヒ順序ヲ顧ルコトナク採伐ヲ肆ニスルニ因リ森林ノ直接及ヒ間接ノ效用ヲ併セ失フニ至ルハ現時我國ニ於テ見ル所ナリ森林ノ直接ノ效用即チ木材薪炭ノ生産ハ爲メニ絶對ニ其分量ヲ減スルノミナラス數十年前ノ歲月ヲ要スル巨大ノ木材ハ永久ニ間斷ナキ需要アルモノナルニ拘ラス漸次其跡ヲ絶ツニ至リ間接ノ效用ニ於テハ爲メニ氣候ニ急激ニ變化ヲ來シ雨量ヲ減シ霜雪ヲ大ニシ寒暖其度ヲ失シ人體生産物ノ發達ヲ害シ殊ニ洪水ノ災害ニ至リテハ行政上ノ煩勞財政上收入ノ減少之カ救済及ヒ復舊ヲ爲スカ爲メニ要スル巨額ノ支出風土人情ノ頽廢等有形ニ無形ニ幾多ノ弊害ヲ來スノミナラス幾多ノ貴重ナル人命及ヒ財産ヲ暴殄スルニ至ルハ我國ニ於テ頻年見ル所ナリ

(乙) 森林ハ財政上官有ト爲スヘキコトニ森林ハ營ニ公益上之ヲ官有ト爲スヘキ場合夥カラサルノミナラス之カ經營ハ却テ官業ヲ適當ト爲スコトハ上述ス

ル所ノ如シ隨テ政府之カ經營ノ術ニ當リ之カ營林及管理ノ方法ニシテ其宜シキヲ得ハ爲メニ得ル所ノ純收入ハ以テ政府ノ經費ノ一部ヲ蔽フニ足ルヘク延テ國民ノ負擔ヲ減少スルコトヲ得ヘキハ又疑ヲ容レサル所ナリ但シ我國ハ總面積ニ對スル森林ノ面積ノ比率ハ七割ニ近ク其過半ハ官有ニ屬シ各國ヲ通シテ比例上最モ森林ニ富メル國ナルニ拘ラス維新以來森林事業ニ對シテハ官私共ニ之カ營林ノ法ヲ怠リ徒ニ之カ濫伐ニ委棄セシヲ以テ其收入ハ甚ダ少ク之ヲ森林事業ノ發達セル「サキノニ」ト比較スレハ我國ハ其面積ニ於テハ四十餘倍ノ官林ヲ有スルニ拘ラス其收入ノ總額ハ却テ之カ六分ノ一ニタモ充タサルノ狀況ニ在リ然レトモ明治十九年大小林區署ノ制ヲ設ケ二十四年全国ノ官林ヲ政府ノ下ニ所管シ三十年四月森林法ヲ發布シ尋テ三十二年三月國有林野法ヲ發布シ近時森林ニ對シテハ朝野ヲ通シテ留意スル者多キニ至リシヲ以テ數十年ノ後ニ至ラハ我國ノ森林ヲ以テ國庫ノ一大財源ト爲スコトハ敢テ難シト爲ササルノミナラス我國公私經濟ノ發達上又之カ改良發達ヲ期セスンハアラサルナリ

第二章 官業

本章ニ於テハ官業即チ政府ノ商業及ヒ工業ニ付キ説明スルヲ順序ト爲スモ此等ハ財政收入上比較的重要ナルモノニアラサルノミナラス大體ニ於テ官有財産ノ説明ニ依リテ之カ概概ヲ付度シ得ヘキモノナルヲ以テ茲ニ之ヲ省略スヘシ

第三章 政府ノ交通業

緒論

政府ノ交通業トハ政府カ經營スル交通方法ニシテ私經濟的收入ヲ目的ト爲スモノナリ交通方法ハ之カ使用者ヨリ報償ヲ求ムルト否トニ依リ有價ノ交通方法ト無價ノ交通方法ニ分ツコトヲ得ヘク其交通方法カ單獨ニ交通ノ目的ヲ達スルコトヲ得ヘキヤ否ヤニ依リ自働的交通方法ト他働的交通方法ニ分ツコトヲ得ヘク其交通方法ハ主トシテ人類及ヒ貨物ノ移轉ヲ目的ト爲スト意思表示ノ通達ヲ目的ト爲スト別ニ依リ廣義ノ交通方法ト通信交通方法トノ二者ニ分

ツコトヲ得ヘシ而シテ政府ハ常ニ他働的交通方法ノ大部即チ無價ノ交通方法及ヒ通信交通方法ヲ經營スルヲ原則ト爲シ通信交通方法以外ノ交通方法ニ在リテハ鐵道事業ノ外一般ニ之ヲ官業ト爲ササルヲ例ト爲セリ故ニ政府カ經營スル所ノ交通方法ハ之ヲ大別シテ有價ノ交通方法ト無價ノ交通方法トノ二者ニ分ツコトヲ得ヘシ

茲ニ所謂政府ノ交通業即チ政府ノ有價の交通事業ハ現時各國ノ實例ニ徴スレハ大要鐵道郵便及ヒ電信ノ三者ニ出サルモノノ如シ而シテ他働の交通方法即チ道路橋梁河川運河ノ如キハ往時政府ハ君主ノ特權ニ基ク收入トシテ通行料ヲ料スルヲ例ト爲シ「アダム・スミス」ノ如キハ道路及ヒ運河ノ維持ヲ以テ國家ノ盡スヘキ職務ト認メ之ニ要スル費用ハ其使用者ヨリ取得シタル特種ノ收入ヲ以テ支辨スヘキモノナリトシテ手数料主義ヲ主張シタル當時ニ在リテハ通行料ニヨリテ政府カ收入ヲ得ヘキモノナリヤ否ヤ通行料其者ノ性質ハ租税ナルヤ手数料ナルヤ又ハ一ノ私經濟的收入ト見ルヘキヤニ付キ多少問題ノ餘地ヲ存シタルモ近時運河ニ對シテ其修繕維持ニ必要ナル費用ヲ之カ航行者

ニ負擔セシムルノ外ハ自由無償ノ交通ヲ原則トシ殊ニ維也納會議ニ於テ河川ノ自由交通ノ原則ヲ認メテヨリ他働ノ交通方法ハ漸次無償ノ主義ヲ採ルニ至レリ一千八百八十年以後佛蘭西ハ運河ノ通行稅ヲ全廢シ有名ナル紐育州ノ「エリー」運河ノ如キモ其後二年ニシテ通行稅ヲ全廢シ獨逸ニ在リテモ近時著シク之カ料金ヲ輕減セリ斯ノ如ク他働ノ交通方法ハ其一部カ手數料トシテ公經濟收入ヲ得ルノ外總テ國有財產即チ國ノ公產トシテ之カ設備維持ノ費用ハ租稅其他ノ經常收入ヲ以テ支辨セラルルニ至レリ

鐵道郵便及ヒ電信ノ事業ハ各國多ク政府ノ事業ニ歸セシムルヲ例ト爲スモノノ如シ是レ一ニ斯業ノ性質カ私人可能ノ相對的欲望ナルカ故ニ外ナラス私人カ不能ノ場合ニ在リテ政府先ツ之カ事業ヲ經營スルハ素ヨリ當然ノ事理ニ屬スルモ私人カ可能ノ場合ニ於テ之ヲ相對的不正ノ欲望ト認ムル所以ノモノハ蓋シ次ノ二個ノ理由ニ基クカ故ナリ

第一 此等ノ事業ハ自然的獨占事業ニシテ而モ公共ノ需要ニ應スルカ爲メ之カ普及ヲ圖リ之カ確實敏活ヲ期シ之カ報償ノ低廉ナルコトヲ要スルヲ以テ之

ヲ目前ノ營利ニ拘泥スル私人ノ手裡ニ委スルハ斯業本來ノ目的ニ反スルモノナリ

第二 交通事業ハ日常公衆ニ社會生活上缺クヘカラサル利便ヲ供給シ公衆ニ對シテ直接ニ且テ重大ナル關係ヲ有スル自然的獨占事業ナルヲ以テ之ヲ一部少數ノ手裡ニ委スルコトハ實ニ社會ノ生産及ヒ富ノ分配上社會政策トシテ之ヲ絕對ニ非難スヘキノミナラス政治上又行政上國家ノ健全ナル生存ヲ阻害スルノ憂ナキヲ保セサルモノナリ

第一ノ理由ハ時ト處ニ依リ必スシモ政府ノ經營ト最モ能ク斯業ノ目的ヲ達スルコトヲ保セサルノミナラス之ヲ歐米各國ノ鐵道ノ歴史ニ徴スルモ斯業本來ノ目的ハ却テ私人ノ手ニ依リテ達セラルルコト其例ニ乏シカラス然レトモ大體ニ於テハ公益ノ事業トシテ之カ普及ヲ圖リ之カ報償ノ低廉ヲ期スルハ私利ニ拘泥スル私人ヨリモ國家ニ於テ最モ多ク其目的ヲ達シ得ヘキノミナラス第二ノ理由ニ至リテハ國家ノ觀念發達セル今日ニ於テ之ヲ政府ノ事業ト爲スヘキ最モ有力ニ且ツ殆ト唯一ノ理由タルヘキモノナリ況ヤ此等ノ交通事業ハ皆

其交通事業タル性質上均シク之ヲ統括スルコトハ管ニ斯業本來ノ目的ヲ達スルカ爲メ最モ利便ヲ得ヘキノミナラス又爲メニ此等交通事業ヲ獨立ニ經營スル場合ニ比スレハ著シク之カ經費ヲ削減スルコトヲ得ヘク公衆ノ生計ノ程度公衆カ爲メニ受タル所ノ利便ニ對照セテ適ニ低廉ナル報價ヲ以テスルモ其事業ノ範圍大ニシテ且ツ分量多キカ爲メ猶ホ充分ノ餘剰ヲ生スルコトヲ得ヘク故ニ此等ノ事業ハ或程度マテ其政府ノ收益ト公衆ノ利便ト相矛盾スルコトナキヲ以テ私人可能ノ相對的不正ノ欲望トセテ其性質上政府ノ事業ト爲スヘキノミナラス此等事業ノ統一ニ因リテ益ノカ利便ヲ大ニスルコトヲ得之ニ伴フテ又國庫ノ一大財源ヲ組成スルモノナリ

然レニ今日各國ノ政府ハ國務ノ増加即チ國家經費ノ膨脹ニ伴ヒ一般ニ交通事業ヲ以テ其公益事業タルノ點ヲ第二位トシ主トシテ收益ヲ目的トシ之カ事業ヲ經營スルヲ常ト爲スニ至レリ是レ交通事業ノ收入カ或ハ公經濟ノ收入トシ或ハ私經濟收入ト爲ス學說カ根底ヨリ別ルル所以ナリ然レトモ其收入ヲ手數料主義ト爲スト官業主義ノ收入ト爲スノ如何ヲ問ハス公益ヲ主トスル獨占事

業タル以上ハ之カ報價ハ其供與者ニ於テ隨意之ヲ決定スヘカラサルノミナラス又通常需要供給ノ原則ニ支配セラルヘキノミアラス蓋シ獨占事業ニ在リテハ其報價ハ需要供給ニ依リテ支配セラルコトナク供給者即チ企業家ニ於テ隨意ニ之ヲ決定シ需要者ハ唯供給者ノ決定シタル價額ニ從フノ外ナキモ其價額ハ常ニ供給者カ自ラ最モ利益アリト思惟スル點ニ於テ決定セサルハナシ換言スレハ其供給ノ數ト其純益ノ比率ト相乘セル額ノ最モ大ナリト思惟スル點ニ於テ決定セラレスンハアラス故ニ供給ノ數即チ需要ノ數ニ依リテ之カ報價額ノ不法ナル昂騰ヲ許ササルモ固ヨリ程度ノ問題タルノミナラス其報價額ノ高低ハ公衆ノ利便享有ノ度數ヲ左右シ得ヘキコト固ヨリ言フ埃タス故ニ若シ其報價ニシテ需要供給上最モ利益アリトスル點ヲ超過スルニ至ラハ斯業本來ノ趣旨ニ反スヘキノミナラス可成公衆カ利便享有ノ度數ヲ増加スルカ爲メニハ之カ設備維持ノ實費ヲ支フル範圍内ニ於テ之カ利潤ノ比率ヲ減セスンハアラス是レ各國ノ交通事業殊ニ郵便電信ノ事業ノ沿革ニ徴スルモ其例ニ乏シカラサル所ニシテ近時ワグネル氏ノ如キ交通事業ハ手數料主義ヲ以テ之ヲ經

第一節 郵便

郵便ノ意義ハ現時ニ於テ凡ソ之ヲ三種ニ解釋スルコトヲ得ヘシ
第一狹義ニ於ケル郵便トハ信書ノ送達ヲ意味シ第二廣義ニ於ケル郵便トハ信
書其他ノ物件及ヒ人類ノ送達ヲ意味シ第三最廣義ニ於ケル郵便トハ信書其他
ノ物件及ヒ人類ノ送達ノ外向ホ此等ノ機能ヲ掌ル機關力便宜附帶シテ經營ス
ル行動ヲ包含スルモノナリ現時此種ニ屬スル行動ヲ郵便爲替郵便貯金及ヒ郵
便生命保險等ノ類ト爲ス狹義ノ郵便即チ信書ノ送達ハ電信及ヒ電話ノ事業ト
共ニ通信事業トシテ認メラルモノニシテ各國皆政府ノ專有ニ屬スルヲ例ト
爲シ唯稀ニ定期刊行物封緘物等ニ付テ認ムルノ國アリ故ニ通常世人カ郵便ノ
專有權ト稱スルハ其實信書ノ專有權ニ外ナラサルモノト知ルヘシ勿論信書ト
雖モ絕對ニ之カ專有權ヲ認メラルコトナク皆多少ノ除外例ヲ設ケサルモノ
ナシ其除外例ノ標準ハ大凡ソ次ノ如シ

第一 報酬ノ有無

第二 信書其モノノ性質

第三 信書ト信書ノ專有權ニ對スル關係

第四 信書ト其送達機關トノ關係

第五 特使

此等各箇ノ標準ニ付テハ其程度ニ付キ各國ノ立法例其比ヲ異ニシ毫モ歸一ス
ル所ナシ蓋シ信書ノ專有ハ事實ニ於テ之カ取締監督ニ困難ナルノミナラス經
費ノ點ニ於テ確實ノ點ニ於テ期間ノ點ニ於テ郵便ニ依ルヨリモ尙ホ利便ナリ
ト爲ス場合ニ強テ郵便ニ依ラシムルハ郵便使其モノヲ官業ト爲セシ本旨ニアラ
サルコト論ナシ郵便ノ專有ハ法文ノ形式ニ依リテ之ヲ確保スルコト能ハス之
カ改良發達ノ實質ニ於テ專有ノ實ヲ舉クヘキモノタリ隨テ郵便ニ對抗シテ私
人カ營業トシテ信書ノ遞送ヲ爲スヲ禁スレハ足レリ若シ郵便事業ニシテ既ニ
統一普及シ一定ノ發達ヲ見ルニ至リテハ信書ノ專有權其モノハ根本ヨリ事實
ニ於テ無用ノ方便ト云フモ敢テ過言ニアラサルナリ

信書ノ専有ハ法文ノ拘束ニ依ルニアラシキヲ斯業ノ改良發達ニ伴フヘキコトハ上述スル所ノ如シ然レトモ法文ノ拘束ハ又絕對ニ效果ナキニアラシキ是レ郵便料金ニ關聯シテ重要ナル問題ニ屬セリ郵便ノ起源ハ當初其他ノ公共團體其他ノ團體カ自己ノ便宜ニ基ケルハ各國其歩ヲ一ニスル所ナリ爾後文化ノ發達ト交通ノ進歩ニ伴ヒ一般公衆ノ需用ニ應ジ遂ニ郵便ヲ官業トシ其一部ヲ専有スルニ至レリ而シテ郵便ハ何カ故ニ官業ト爲スヘキカハ又特ニ茲ニ述フルノ要ナシ唯本章諸論ニ於ケル理由ニ信書秘密ノ保障ヲ追加スルヲ以テ足レリトス英國派ノ泰斗アダム・スミスカ各種ノ政府カ經營セル商業策ニシテ能ク成績ヲ全ウシ得タルモノハ獨リ郵便制度アルノミト云ヘルヲ見ルモ郵便事業ハ官業トシテ「スミス」時代ニ於テ尙ホ非難ヲ受ケサリシコトヲ知ルヲ得ヘシ唯注意ヲ要スルハ「アダム・スミス」此言ヲ發セルハ「ローランド・ヒル」カ「ペンニ」説ノ行ハレシ時ヨリ五十四年前ニシテ一通ノ信書郵便料カ尙ホ平均四十ペンニ「」ヲ越エシ時代ナルコト是ナリ蓋シ郵便料ハ需用供給ノ原則ヲ根底トシ其郵便物ノ重量ト運送ノ距離ト取扱ノ方法ニ因リテ高低スルモノナリ而シテ需用ノ

増加ト其機能ノ發達ハ漸次距離ノ長短ヲ問フノ必要ヲ見サルニ至ルモノナリ千八百四十年「ローランド・ヒル」郵便稅十分ノ一削減論成效シ郵便切手ノ制行ハレ斯業ノ發達特ニ著シキヲ加ヘ各國皆其例ニ倣フニ至レリ近年「スタウファ」氏ノ唱道ニ依リ萬國郵便聯合ノ制開ケテヨリ斯業ノ改良進歩殊ニ著シキヲ加ヘ現時ハ郵便料ニ對シテハ手數料主義ヲ唱道スル者アルニ至レリ郵便料ノ高低ハ固ヨリ程度ノ論ナレトモ料金ノ遞減ハ收入ヲ減シテ郵便物數ヲ増加シ料金ノ増加ハ收入ヲ増シテ少クトモ郵便物數ノ増率ヲ減少スルハ各國實例ノ證明スル所ナリ今其一例ヲ示セハ次ノ如シ

國名	稅率減少 モ年次	稅率減少 割合	郵便物數増 加割合	收入減少 割合
英吉利	一八四〇	七五	一二〇	四五
白耳義	一八七〇	三三	二一〇	二〇
奧太利	一八六六	二八	一一一	二〇
佛蘭西	一八四九	四六	三一一	二九
同	一八五四	二一〇	一七一	〇六

此ノ如ク郵便料金ノ減少ハ郵便物數ノ増加ヲ來スト共ニ收入ノ減少ヲ來スモ
ノナリ但シ右表ニ於ケル物數増加ノ比率ハ普通郵便料金ニ高低ナキモ人口ノ
増加ト文化ノ發達トニ伴ヒ通常一割ヨリ二割ノ増加ヲ見ルモノニシテ唯英國
ニ於ケル千八百四十年ノ改正ハ郵便物數ニ於テ十二倍ノ著シキ増加ヲ見タル
モ其大部ハ料金低減ノ爲メニ新ニ信書送達ノ物數カ絕對ニ増加セシニアラス
シテ在來政府ノ郵便以外ノ方法ニ依リテ送達セシモノカ政府郵便ノ方法ヲ利
用スルニ至リシモノナリ其收入ニ於テハ四割五分ヲ減少シ總收入カ改正率前
ニ復舊スルニハ殆ト十五年ヲ要シ純收入ニ至リテハ二十五年ヲ經テ漸ク之カ
復舊ヲ見ルニ至レリ然レトモ爲メニ英國人民カ享有シタル利便及ヒ之カ爲メ
ニ間接ニ經濟上政治上行政上ニ及ホシタル效績ニ至リテハ實ニ吾人ノ豫想外
ニ出ツルモノナリトス

郵便料金ノ高低ハ一ニ手數料主義ヲ採ルヘキヤ又ハ收益主義ヲ採ルヘキヤニ
在リ換言スレハ郵便物數ノ多キヲ望ムヘキヤ純收入ノ多キヲ望ムヘキヤニ在
リ然レトモ政府ノ獨占事業トシテ事實ニ於テハ極端ナル手數料主義ハ國家經

費ノ膨脹ニ伴ヒテ之カ實行ヲ許ササルノミナラヌ極端ナル收益主義モ公共事
業其モノノ性質上又之カ實行ヲ豫期スヘカラサルモノナリ今歐米各國ニ於ケ
ル郵便事業ノ收支ニ就テ明治三十年ニ於ケル統計ヲ見ルニ次ノ如シ

國名	收入	支出	收入と支出 對スル差額
佛蘭西及 アルゼンチン	九六〇三 萬圓	七三〇五 萬圓	一九六 萬圓
加奈太	八七四	一〇四三	一一九
北米合衆國	一七二三二	一九四三七	一一三
伊太利	二二三三	二一九八	一〇四
那威	二二九	二二八	九五
瑞典	一一六四	一〇九八	九四
埃太利	三八〇〇	三四六四	九一
丁抹	四〇八	三七一	九一
日耳曼	一八三九一	一六四〇三	八九
瑞典	五八四	五一六	八八
財政學 收入論 郵政ノ交通業 郵便			九三

和 蘭	七二〇	五七七	八〇
露 西 亞	六八〇六	五二八四	七八
日本 <small>(郵傳ヲ除ク)</small>	七六八	五九五	七七
洪 易 利	一五六九	一一三二	七二
大不列顛	一二五一九	八七五九	七〇
白 耳 義	八六七	四七九	五五
西 班 牙	九九二	四五六	四六

右表ハ收支計算ノ標準其他斯業發達ノ程度如何ニ依リテ其類ヲ異ニスヘキヲ以テ直チニ之カ是非ノ標準トナス可ラサルモ大體ニ於テ我國ノ如キハ事口利潤ノ比率多キ部ニ屬スルモノタルコトヲ知ルヘシ私見ヲ以テスレハ郵便事業其モノヲ絕對的ニ觀察スレハ手數料主義ヲ以テ斯業ノ發達ヲトシ得ヘキモ相對的ニ國家財政ノ全局ヨリ觀察スレハ時ト處トニ依リ固ヨリ一律ニ論シ難キモ事實ニ於テ各國手數料主義ヲ採ル能ハサルコト明カナリトス隨テ我國ノ郵便料改正ノ如キモ郵便料其モノニ付テ之カ是非ヲ論スルニ先チ先ツ政府ハ

要スル所ノ歲出ノ必要ノ有無次ニ其歲出ノ額ヲ必要ナリトセハ他ニ之カ補給ノ道アルヘキヤ否ヤニ付キ先ツ之カ是非ヲ先決セシムハアラス

第二節 電 信

電信ノ意義ハ亦之ヲ三種ニ解釋スルコトヲ得ヘシ

第一、狹義ニ於ケル電信トハ現時所謂電報トシテ吾人カ電氣ノ作用ニ依リテ意思表示ノ通達ヲ爲ス行動ヲ稱スルモノナリ第二、廣義ニ於ケル電信トハ狹義ニ於ケル電信ニ加フルニ電話ヲ以テスルモノナリ第三、最廣義ニ於ケル電信トハ廣義ニ於ケル電信ノ外電氣ノ作用ニ依リテ意思表示ノ通達ヲ爲ス總テノ行動ヲ包含スルモノナリ

以上三種ノ解釋ハ何レモ電氣ノ作用ニ依ル意思表示通達ノ行動ヲ爲スニ於テ一ナレトモ實際ニ於テハ毫モ電氣ノ作用ヲ受クルコトナク仍ホ電信ト稱セラレルモノアリ即チ直配送空氣管傳送(pneumatic pipe)號標通信(semaphore)ノ作用ノミヲ以テ足レリトスル場合ノ如キ是ナリ然レトモ此等ハ主トシテ電報ノ送達ノ

手段トシテ用ヒラルルヲ原則ト爲スモノニシテ通常電信ノ意義ハ狹義若クハ廣義ニ用ヒラルルヲ例ト爲シ我國ノ現行ノ電信法規ノ如キモ法規ノ種類ノ異ナルニ從ヒ自ラ二様ノ意義ヲ有スルモノナリ

電信ハ千八百三十九年英國ニ於テ公衆ノ用ニ供セラレテヨリ著シク長足ノ進歩ヲ顯シ千八百六十五年萬國電信同盟ノ設立ト爲リ狹義ノ電信ニ於テハ合衆國ヲ除クノ外ハ各國殆ト皆官業ト爲シ電話ノ如キモ多數ノ國ハ官業ト爲セリ電信ノ官業ニ付テハ其建設修繕等ニ要スル經費ノ巨額ニシテ監理ノ統一ニ伴フ節約高比較的ニ少ク發信ノ費用ハ其全費用ノ大部分ヲ組成シ而モ此費用ハ事務ノ増進ニ伴ヒテ迅速ニ増加ヲ來スヲ以テ學說實際共ニ政府ノ官業ニ對シ多少ノ非難ナキニアラサレトモ政府カ郵便ノ事業ト結合スルニ因リ著シク經費ヲ節減スルコトヲ得ヘク又其普及確實等ノ點ニ於テ官業ト爲スヘキ理由ハ郵便ニ於ケル場合ト大體ニ於テ異ナルコトナク殊ニ郵便電信ヲ通シテ官業ト爲スヘキ特種ノ理由ハ信書ノ秘密ニ在ルコトハ義ニ一言セル所ナリ即チ政府カ信書ノ秘密ヲ保證スヘキ理由ハ政府及ヒ人民ニ對シ各積極及ヒ消極ノ兩面ヲ存セ

テ換言スレハ政府及ヒ人民ノ信書ノ秘密殊ニ政府ノ通信ノ秘密ヲ保證スルト同時ニ一方ニハ公安ノ爲メ其他國家ノ生存上信書送達ノ停止ヲ爲スコトヲ要ス然レトモ電信ヲ官業ト爲スモ專有權ノ絕對ニ認ムヘカラサルハ郵便ノ場合ト異ナルコトナレ但シ電信ハ巨額ノ固定ニシテ且ツ不動ナル資本ヲ投下スルモノナルカ故ニ之カ監督取締ノ容易ナルハ郵便ノ場合ト全ク相反シ又性質上經費上郵便ノ場合ノ如ク之カ機關設備ノ普及ヲ望ミ難キヲ以テ其除外例ノ範圍ハ信書郵便ノ場合ニ比シテ勢ヒ廣濶ナラサルヲ得ス今各國ノ立法例ニ徴スレハ大體ニ於テ官設主義ニ三種ノ區別存スルヲ見ルヘシ即チ第一、最狹義ノ官設主義ハ公安上電信ノ私設ヲ政府ヨリ強制スヘキ性質ヲ有スルモノ例ヘハ鐵道事業ニ伴フ電信ノ如キモノノミニ付テ之カ私設ヲ認メ第二、狹義ノ官設主義ハ最狹義ノ私設線ヲ認ムルノ外向ホ公安ヲ害セサル範圍内ニ於テ專用ノ私設線ヲ認メ第三、廣義ノ官設主義ハ廣義ノ官設主義ヲ認ムルノ外向ホ公安ヲ害セサル範圍内ニ於テ公衆用ノ私設線ヲ認ム勿論此等何レノ主義ニ通スルモ施設ノ地域用務ノ性質及ヒ設備ノ主體ヲ標準トシテ幾多ノ制限ヲ付スルニ於テハ

一ナリトス此等ノ主義ニ付テハ時ト處トニ依リ皆其事情ヲ異ニスルヲ以テ固ヨリ絕對ニ之カ可否ヲ論スヘカラス

第三節 鐵道

鐵道ハ國有ト爲スヘキカ民有ト爲スヘキカハ理論ニ於テ實際ニ於テ普ク論究セラレ而モ今日ニ至ルマテ未タ歸一スル所アルヲ見ス予ノ見ル所ヲ以テスレハ國有民有ノ兩論者ハ共ニ其論スル所極端ニ失スルノ嫌尠カラサルノミナラス時ト處トニ依リテ其間ニ重要ナル差別ヲ生スヘキコトヲ看過セルモノノ如シ

國有論者ハ常ニ經濟上及ヒ財政上ノ點ヨリ民有鐵道ヲ非難スルヲ例ト爲セリ然レトモ經濟上及ヒ財政上ノ理由ハ常ニ時ト處トニ依リテ著シク其效果ヲ異ニスルノミナラス在來ノ實例ニ徴スレハ事實カ却テ國有論者ニ對シ反對ノ立證ヲ爲スモノ尠シト爲サス經濟上ノ理由トシテ國有論者ノ唱道スル論點ハ鐵道ハ自然的獨占事業ニシテ公共的ノ性質ヲ有ス故ニ之カ布設ハ全國ニ普及セ

テ一般交通ノ利便ヲ達シ政府ノ手ニ歸一シテ確實ナル監督ノ下ニ運賃ノ低廉及ヒ人類貨物輸送ノ確實ヲ期シ事實ノ經營ニ對シテ統一ト公平ヲ持シ人類貨物輸送危險ノ擔保鐵道事業ニ從事スル勞働者ノ保護等ノ完全ヲ期スルコトヲ得ヘント爲スニ在リ財政上ノ理由トスル所ハ鐵道事業ノ統一ニ依リテ郵便電信ノ官業ニ結合シ以テ國庫ノ收入ヲ増加シ以テ間接ニ國民ノ負擔ヲ輕減スルハ財政上一舉兩得ノ政策ナリト云フニ在リ

然レトモ先ツ國有鐵道ト民有鐵道ト果シテ孰レカ經濟上ノ效果ヲ奏セルヤ國有鐵道ハ果シテ國庫收入ノ財源タルヤ事實ニ於テ確證セシムハアラス予輩ハ前提トシテ第十九世紀ノ國家ハ各國ヲ通シテ日ニ月ニ經費ノ増加ヲ促シ殊ニ軍事上ノ經費ハ國家支出ノ大部ヲ占メ歐米ノ列國ニシテ爲メニ財政ノ困難ヲ感セサルモノナク隨テ政府ハ常ニ歲計上新ニ鐵道ヲ建設シ又ハ既設ノ民有鐵道ヲ買上クヘキ餘裕ヲ存セサルノミナラス皆公債ノ募集租稅ノ新設及ヒ増率ニ依リ漸ク財政ノ維持ヲ爲スモノナルコトヲ認知セシムハアラス既ニ此ノ如キ政府ノ下ニ於テ鐵道ノ普及ハ果シテ豫期スルコトヲ得ヘキヤ鐵道運賃ノ

低減ハ果シテ豫期スルコトヲ得ヘキヤ佛蘭西カ七大鐵道ノ國有計畫ヲ立テテ而モ其六大線路ハ遂ニ之ヲ民有ノ手ニ委ネシハ世人ノ知ル所ナリ白耳義ハ鐵道國有ノ嚆矢ニシテ爾後新設ノ私設線ニ對スル競爭ニ堪フルコト能ハサルカ爲メ此等私設線ノ大部ヲ買收シ結局鐵道ノ收入ハ公債ノ利子ヲ償フニ至ラス千八百八十三年ニハ純收入四千八百五十萬フランク鐵道公債ノ利子二千五百萬フランク差引四百萬フランクニ近キ不足ヲ生シ爲メニ却テ運賃ヲ引上タルノ窮策ニ出テ尙ホ今日公債ノ利子ヲ償フニ汲汲タルハ又吾人ノ見ル所ナリ此ノ如ク鐵道ノ純收入ヲ以テ鐵道公債ノ利子スラモ償却シ能ハサルハ獨リ白耳義ニ止マラス佛蘭西奧太利匈牙利伊太利「ブラジル智利濠太刺利亞「バーデン」「バーリヤ」ノ如キ皆然ラサルハナク加奈太及ヒ印度ノ如キハ官有鐵道ノ收入ハ其事務費スラモ支フルコト能ハサルコトアリ即チ加奈太ノ如キハ一千八百八十六年ニ於テ不足額十八萬弗翌年ハ三十一萬弗ニ上リ別ニ五千萬弗ノ鐵道公債ヲ負擔シ又印度ノ如キハ一千八百八十九年度ニ於テ一億六千百萬ルービーノ收入ニ對シ一億八千七百萬ルービーノ支出ヲ爲セリ此ノ如ク國有鐵道カ民有

鐵道ニ比シテ支出超過ノ實況ヲ示スハ民設會社ハ目前ノ私利ヲ營ムニ急ナルノ餘之カ經費ノ上ニ於テ無謀ノ削減ヲ加ヘタルノ嫌ナキニアラスト雖モ此等ハ一方ニ於テ官有鐵道ニ於ケル官廳流ノ冗費多キニ過クル弊害ト相殺スルコトヲ得ヘケレハ少クトモ國有鐵道論者カ財政上ノ理由トシテ主張スル所ハ却テ反對ノ立證ヲ爲スモノト云ハスンハアラス而モ此結果ヲ來セルハ官有鐵道カ鐵道ノ普及ヲ計ルカ爲メ比較的利便少キ地方ニ鐵道事業ヲ起シ又ハ速賃ヲ輕減シタルカ爲メニ生シタルモノニアラサルノミナラス却テ運賃ノ引上ヲ行ヒシ實例アルヲ見レハ民有鐵道ハ國有鐵道ニ比シテ却テ經濟上優勝ナルモノト云ハスンハアラス此ノ如キハ我國其他歐米各國鐵道ノ實況ニ徴スルモ亦敢テ之ヲ解スルニ難シト爲ササル所ナリ

世人動モスレハ國有鐵道トシテ成功シタル普魯西ノ實例ヲ取リテ直チニ今日ノ我國ニ引證セントスルハ一ノ希望トシテハ可ナルモ經濟政策トシテハ時ト處トヲ順サルノ甚シキモノト云ハスンハアラサルナリ況ヤ普魯西鐵道其モノハ國有論者ノ唱フルカ如キ實功ヲ奏シタルモノニアラサルニ於テラヤ「ビスマ

一〇カ私設鐵道買取法案ヲ議會ニ提出セシ理由ハ要スルニ鐵道ヲ國有トシテ私立會社ノ迷想ヲ去リ私利ニ走ラス公益ヲ圖リ業務ヲ改良シ運賃率ヲ低減シ且ツ之ヲ簡單ニシ人民ノ便益ヲ進メ收益ヲ以テ速ニ鐵道公債ヲ償却シ爾後國庫ノ爲メニ莫大ナル財源ヲ開クヘシト云フニ在リ當時政府委員ハ運賃率ノ低減ヲ以テ重ナル理由ト爲セリ即チ私立會社ハ收益ノ精神ニ支配セラレタ唯配當ノ多カラシコトヲ望ミ業務ノ改良運賃ノ低減ヲ欲セス唯政府ノミ善ク公益ノ爲メニ鐵道ヲ使用スルコトヲ圖リ獨リ其資本ノ使用其當ヲ得テ經濟ニ適スルノミナラス全ク私利ノ念ナキカ故ニ鐵道ヲ以テ一國繁榮ノ手段ト爲シ事業ノ經濟ヲ圖ルト共ニ常ニ線路ヲ擴張シ業務ヲ改良シ運賃率ヲ低減スヘシト明言セリ然ルニ買收後ノ政府ハ實ニ運賃率ノ低減ヲ爲ササルノミナラス却テ千八百七十四年六月及ヒ翌年二月ノ布告ヲ以テ在來ノ運賃率ノ百分ノ二十マヲ増加シ得ヘキコトヲ公示セリ而シテ尙ホ運賃率算定ノ標準ヲ一ニシテ各地方ニ於ケル異同ヲ廢シ一般ノ利益ヲ計リシハ所謂私利ニ專ナル私設會社ヨリ成ル鐵道運賃率協定同盟會ノ千八百七十六年ライプツヒ會議ノ決議ニ基キシ

モノニシテ政府ハ單ニ之ニ賛同セルニ過キス其後政府ニ對シテ議會及ヒ新聞紙等ニ於テ屢ニ運賃率低減ノ請求ヲ爲セシモ政府ハ之ニ應スルコトナク鐵道ノ純收入ハ鐵道運賃ノ利子ヲ控除シテ尙ホ二億萬「マルク」ニ近キ剩餘ヲ生スルニ拘ラス年年殆ト其全部ヲ舉ケテ政府ノ歳入總豫算ニ編入シタリ而シテ一方ニハ私設線買取以後ノ政府ノ營業費ハ從前民有ノ場合ニ比シテ却テ増加セラルハ「コロニユーミンデン」鐵道「ライン」鐵道等ニ於テ之カ實例ヲ示スノミナラス之ヲ獨逸及ヒ佛蘭西ニ於ケル私設會社ノ鐵道ト比較スルモ其輸送額ノ比率遙ニ多キニ拘ラス經費ノ割合ハ常ニ平均百分ノ三乃至四ノ超過ヲ生シタリ予輩ハ固ヨリ普魯西ノ國有鐵道ハ鐵道官業トシテ最も好成績ヲ舉ゲシモノタルコトヲ認ムル者ナリ然レトモ千八百八十年乃至千八百九十年ニ至ル國有鐵道經費ノ減少ハ總經費ノ百分ノ八ヲ占メタル石炭ノ價額ノ半減鐵道ノ統一ニ基ク經費ノ節約ノ外ニ工務大臣「メーバツク」ノ極端ナル射利主義ニ由リ使用人ヲ減少シ線路車輛等ノ保存維持ニ注意セス一方ニハ此等ノ修繕改良ノ費用ヲ臨時費ニ編入シテ借入勘定ト爲シ又中央鐵道廳ノ經費其他鐵道使用人ノ恩給

費等ヲ他ノ官廳ノ經費ニ轉嫁シ形式ニ於テ假面的ノ收入ヲ増加シタルノミナラス此等ノ純收入ノ使途ハ千八百八十二年ノ法律ニ依リ第一鐵道公債利子ノ支拂第二政府ノ經常豫算ニ於テ歳入ノ不足セル時二百二十萬マルクニマテノ補助第三鐵道公債ノ償却ニ充ツヘキコトト爲セシモ鐵道公債償却ノ割合ヲ毎年百分ノQ七五ニ限リ且ツ其償却ハ第一千八百七十九年以前ノ鐵道舊公債ノ償却第二政府總豫算ノ歳入不足ノ補充第三無期公債ノ買収ヲ爲シ尙ホ殘餘アル場合ヲ條件ト爲セルヲ以テ殆ト之カ實行ヲ見ルコトナク年年三千萬フランク乃至一億五千萬フランクノ金額ハ常ニ總豫算ニ編入セラルルニ至レリ是レ前ニ政府カ民有會社ニ對シテハ準備積立金及ヒ公債償却資金トシテ總收入ノ百ノ四三五ヲ控除セシメシ精神ト買収後ノ政府ハ自ラ鐵道純收入ノ巨額ナルニ拘ラス之カ設備經營費率ノ遞減鐵道公債元金ノ償却ヲ後ニシテ殆ト其全部ヲ總豫算ニ編入セル實蹟ニ照應スレハ所謂民設會社カ配當ノ多少ヲ先ニシテ設備經營ノ要務ヲ後ニスルノ非難ハ均ク國有鐵道ノ場合ニ於テモ亦之ヲ免ルルコト能ハサルヲ見ルヘシ

アモノニシテ學者及ヒ實際家カ其豫防策ヲ研究スルハ偶然ノコトニアラサルヲ知ルヘシ

此ノ如ク國籍ノ衝突ハ大ニ恐ルヘキ結果ヲ生スルモノナレトモ學者ハ往往之ヲ以テ空想ナリト云フ者アリ此見解ニ依レハ元來人ハ一身ヲ以テ同時ニ二個以上ノ國ニ臣事スルコト能ハサルカ故ニ縱令外形上數多ノ國籍ヲ併有スルモ法理上ヨリ之ヲ云ヘハ何レカ一ノ國籍ヲ有スルニ過キサルモノトス故ニ各國ノ法律カ往往國籍衝突ノ豫防ニ付テ規定ヲ設クル例アレトモ全く無用ナリト云ヘリ抑モ法理上國籍ノ衝突ナキコトハ余輩モ亦之ヲ怪マスト雖モ國籍ノ取得ニ關スル各國ノ制度カ一定セサル今日ニ於テ外形上國籍ノ衝突ヲ生スルコト固ヨリ其所ナルカ故ニ實益上ヨリ云ヘハ我法律ノ如ク此問題ヲ決定スル條文ヲ設クルヲ可トス尙ホ國籍衝突ノ豫防方法ニ付テハ議論アルカ故ニ後ニ之ヲ説明スヘシ

次ニ簡單ニ國籍ノ衝突ニ關スル沿革ヲ説明スヘシ抑モ羅馬ニ於テハ國籍ノ衝突ヲ認メサリシカ希臘ハ之ニ反シ國籍ノ衝突ヲ以テ弊害ナキモノトシ之ヲ是

認セリ其後歐洲ニ於テ殊ニ封建時代ニ於テハ國籍衝突ノ例頗ル多ク就中共同主權ノ行ハルル國ニ於テハ國籍ノ衝突ヲ發生セシコト怪ムニ足ラス近世ニ於テハ二三ノ國ヲ除クノ外國籍ノ衝突ヲ否認セサルナシ然レトモ今日未タ各國ノ間ニ國籍ノ衝突ヲ鎮滅スル原則ヲ一定スルニ至ラス

今國籍衝突ノ原因ヲ舉クレハ左ノ如シ

第一 出生ニ因ル國籍ノ衝突

血統主義ヲ採ル國ニ於テハ自國人ノ生ミタル子ハ自國ノ人民ナリトス然ルニ生地主義ヲ採ル國ニ於テハ自國內ニ生レタル者ハ其父母ノ國籍如何ニ拘ラス總テ自國ノ人民ナリトス例ヘハ獨逸、埃太利、匈牙利等ニ於テハ血統主義ヲ採ルカ故ニ此等ノ國ノ人民カ南米諸國ノ如ク生地主義ヲ採ル國ニ於テ子ヲ生ミタルトキハ忽チ國籍ノ衝突ヲ生スヘシ左レハ從來歐洲諸國ト此等ノ諸國トノ間ニ國籍ノ衝突ニ付キ紛議ヲ生シタルコト屢アリ殊ニ國籍ノ衝突ニ付キ紛議ノ原因ト爲ルハ多ク兵役ナリトス

出生ニ依ル國籍衝突ノ爲メニ起リタル外交上ノ紛議中最モ有名ナル事件二個

アリ(一)ハ「ロマゲラー」事件ニシテ(二)ハ「マグドナルド」事件ト稱スルモノ是ナリ
全「ロマゲラー」事件ノ概略ヲ述ヘンニ「ロマゲラー」ハ西班牙人ニシテ南米「アルジヤンチン」ニ於テ出生シ「バルゼロナ」ニテ産業ヲ營ミシカ「アルジヤンチン」領事館ノ戶籍簿ニ登錄シタリ偶、西班牙政府ハ之ヲ兵役ニ徵集セシニ此處置ニ對シ「アルジヤンチン」ハ抗議ヲ爲シタリ其理由トスル所ハ「ロマゲラー」ハ「アルジヤンチン」ニ出生セシノミナラス「アルジヤンチン」ト西班牙間ノ條約ニ依ルモ將タ戶籍簿ニ登錄ニ徵スルモ本人カ「アルジヤンチン」人ナルコト疑ナシト云フニ在リ然ルニ西班牙政府ノ答辯ニ依レハ「ロマゲラー」父ハ西班牙人ナルヲ以テ「ロマゲラー」モ亦西班牙人ナリト此事ハ遂ニ「アルジヤンチン」ノ勝利ニ歸シタリ
次ニ「マグドナルド」事件ノ梗概ヲ叙センニ「マグドナルド」ハ英國人タル父母カ佛國ニ於テ生ミタル子ナリシカ當時佛國ハ生地主義ヲ採リシヲ以テ「マグドナルド」ハ佛國人トシテ佛國ノ兵役ニ就キタリ然ルニ千七百四十七年英佛二國カ干戈ヲ交ヘシトキ偶、佛國ノ軍旅ニ從ヒシカ英人ニ生擒セラレタリ英國裁判所ハ「マグドナルド」ハ佛國人タルヲ認メス謀反人トシテ死刑ノ宣告ヲ爲シタリ然レ

トモ其後マグドナルドハ死刑ヲ宥サレ英國ヲ追放セラレシカ英國ノ獄中ニ呻吟セシコト實ニ二十年ナリシト云フ

以上ハ血統主義ト純然タル生地主義トノ衝突ヨリ起ル例ナレトモ血統主義ト半生地主義トノ衝突ヨリ起ル國籍ノ衝突アリ例ヘハ佛國ノ民法ニ依レハ千八百八十九年改正佛國ニ於テ生レタル外國人カ佛國ニ於テ子ヲ生ミタルトキハ其子ハ佛國人ナリ抑モ此規定タルヤ素ト人口ノ増殖ヲ計ルカ爲メニ出テタルモノナレトモ實ニ其效ヲ奏セザルノミナラス之カ爲メニ國籍ノ衝突ヲ屢惹起セシヲ以テ大ニ世人ノ非難ヲ受ケタリ例セハ伊太利人カ佛國ノ別荘ニ於テ子ヲ生ミ而シテ此子カ成長ノ後更ニ此別荘ニ來リテ子ヲ生ミタルトキハ佛國ヨリ觀レハ佛國人ナリトス然ルニ伊太利ハ血統主義ヲ基礎トスル國ナルカ故ニ伊太利ヨリ觀レハ右ノ子ハ伊太利人ナリ是レ國籍ノ衝突ヲ生スル所以ニシテ兩國ノ間ニ從來國際ノ紛議ヲ生セシコト屢之アリ其他佛國ハ獨逸白耳義諸國ト兵役ニ付キ國籍衝突ノ紛議ヲ生シタルコト鮮少ナラス殊ニ千八百八十九年ノ改正法實施以來二年ヲ經サルニ既ニ白佛ノ間ニ國籍ノ衝突ヲ生セシカ白耳

義政府ノ讓歩ニ依リテ落着ヲ見ルニ至レリ即チ千八百九十一年白耳義ハ佛國ト條約ヲ締結シ佛國及ヒ白耳義二國ノ國籍ヲ有スル臣民ニハ兵役ヲ課セザル旨ヲ規定セリ

以下國籍衝突ノ他ノ原因ヲ示スヘ即チ甲國臣民タル父カ乙國ニ住居シ而シテ乙國ニ於テ生ミタル子ハ甲國ノ臣民タルト同時ニ乙國ノ臣民タリ例ヘハ千八百六十八年改正憲法並ニ千八百六十六年改正條例ニ依レハ北米合衆國ノ裁判權ニ服從シ而シテ外國ノ主權ニ服從セザル外國人ノ子ニテ合衆國ニ生レタル者ハ合衆國ノ臣民トス同國ノ裁判例ニ依レハ合衆國ノ裁判權ニ服從シ而シテ外國ノ主權ニ服從セザル外國人トハ單ニ合衆國ニ居所ヲ有スル外國人ヲ指スニアラスシテ同國ニ住所ヲ有スル外國人ノ謂ナリ合衆國政府ノ見解亦此ノ如シ例ヘハ「グライザ」事件ニ關シ千八百八十五年國務大臣カ爲シタル裁定ノ如キ是ナリ而シテ外國人ニシテ合衆國ニ住居シ同地ニ於テ子ヲ生ミタル例頗ル多ク殊ニ獨逸人ニ其例多キカ故ニ忽チ兩國ノ間ニ國籍衝突ノ紛議ヲ生スルニ至レリ「ランジュ」自由國ノ制度亦然リ千八百七十九年五月八日憲法第一

(條)

外國人ノ子カ生地ヲ去ラスシテ其處ニ居住スル場合ニ其國ノ國籍ヲ取得スル例アリ例ヘハ丁抹及ヒコロンビヤ^一ノ如キ是ナリ右丁抹ノ制度ニ付キ^一言セシニ同國ニ於テハ臣民ニ二種アリ^一ハ丁抹ニ生レ且ツ住居スル者ニシテ^二ハ同國ニ生レタル者ナリ千八百七十年獨逸法律實施以前ニ在リテハ^三シユレスウ^四井ヒ、ホルスタイン^五ニモ亦丁抹ノ法律行ハレシカハ埃太利及ヒ普漏西間ニ國籍衝突ニ付キ紛議ヲ生シタルコトアリ千八百六十九年ノコトナリシカ^六アルトナ^七ニ住居セタル普漏西ノ臣民同地ニ於テ一子ヲ娶ケタリ然ルニ千八百八十八年埃國政府ハ此生子ニ向テ徵兵検査ニ應スヘキ命令ヲ發セシニ本人ハ普國ノ臣民ナル旨ヲ申立テ此命令ニ服セサリキ普國政府モ亦此申立ヲ正當ナリト認メ埃國政府ノ抗議ヲ容レサリシカハ埃國政府ハ遂ニ本人ニ對シ國籍脱却ヲ允許セリ

次ニ半生地主義ヲ採ル國ニ於テ生レタル者カ成年ニ達セサル場合并ニ成年後生地ノ國籍ヲ脱セサル場合ニモ國籍ノ衝突起ル例ヘハ英吉利、葡萄牙、伊太利等

ノ法律ニ依レハ此等ノ國ニ生レタル子ハ其父母カ外國人ナルトキト雖モ生地ノ臣民ナリトス但シ成年後ハ父母ノ國籍ヲ選擇スル權アリ殊ニ英國ニ於テハ千八百七十年以前ニ在リテハ純然タル生地主義行ハレタルカ故ニ外國人ノ子ニシテ同國ニ生レタル者ハ英國人ニシテ父母ノ國籍ヲ選擇スルコトヲ許サザリシカ新歸化法出ツルニ及ヒテ始メテ選擇ヲ許スニ至レリ葡萄牙ノ法律ニ依レハ葡萄牙ニ生レタル未成年者ト雖モ法律上ノ代理人ニ依リテ葡萄牙ノ國籍ヲ脱却スルコトヲ得ルカ故ニ國籍ノ衝突ハ英國ノ制度ニ比シテ僅少ナルヘシ^一伊太利民法カ生地主義ヲ採用シタル點二箇アリ^一ハ伊太利ニ生レタル子ノ父カ子ノ出生前ニ伊國ノ國籍ヲ喪失シタル場合ニ生子カ伊國ニ住居スルトキハ成年ニ達スルマテ之ヲ伊國人ト爲ス^二ハ父カ十年間引續キ伊國ニ住居シ同地ニ子ヲ生ミタルトキハ生子ハ成年ニ達スルマテ伊國人ト爲ス而シテ生子ハ此二箇ノ場合ニ於テ成年後父ノ國籍ヲ選擇スルコトヲ得ルモノトス殊ニ右第一ノ場合ニ於テ生子カ伊國以外ニ住所ヲ移ストキハ伊國ノ國籍ヲ喪失ス第二ノ場合ハ千八百六十五年始メテ制定セラレタルモノニシテ之カ爲メ瑞西國ト國

籍衝突ノ爭論ヲ開キタルコト屢是アリ抑モ伊太利民法第八條ニ依レハ十年間引續キ伊國ニ住居スル外國人ノ子ニシテ伊國ニ生レタル者ハ伊太利法律ニ依リテ成年ニ達シタル後ニアラサレハ國籍ノ選擇ヲ許サス然ルニ伊太利ノ成年ハ二十一歳ニシテ徵兵適齡ハ二十歳ナリ故ニ伊太利ニ生レタル未成年ナル瑞西人カ伊國人トシテ同國ノ兵役ニ就クノ例珍シカラス何トナレハ二十歳ニテハ未タ伊太利ノ國籍ヲ脫スル能ハサレハナリ是ニ於テ千八百六十八年瑞西政府ハ伊太利ト條約ヲ締結シ瑞西人ノ子ニシテ二十一歳未満ノ者ハ伊太利ノ兵役ニ徵セサル旨ヲ約定セリ

次ハ乙國ニ於テ生レタル甲國人タル父カ乙國ニ於テ生ミタル子ハ成年ニ達スルマテ乙國ノ臣民タリ又成年以後ト雖モ父ノ國籍ヲ選擇セサルトキハ乙國ノ臣民タル場合ニシテ國籍衝突ノ原因ト爲ル例ハ佛國民法ニ依レハ二代以上佛國ニ生レタル者ハ父ノ國籍ヲ選擇スルコトヲ得ルモ其選擇ヲ爲ササル間ハ佛國ノ臣民ナルカ故ニ其父母ノ國ト國籍ノ衝突ヲ起スコトアルヘシ
以上ハ血統主義ト純然タル生地主義ト又ハ半生地主義トノ衝突ヨリ起ル國籍

衝突ノ場合ナルモ血統主義ト血統主義又ハ血統主義ト半血統主義トノ間ニ國籍ノ衝突ヲ生スル場合アリ例ヘハ血統主義ヲ採ル甲國ノ男子ト他ノ血統主義又ハ半血統主義ヲ採ル乙國ノ女子トノ間ニ子ヲ設ケタルトキ婚姻ニ基因スルト否トヲ問ハス其生子ハ父ノ國ヨリ觀レハ甲國ノ臣民ニシテ母ノ國ヨリ觀レハ乙國ノ臣民ナリ即チ一人ニシテ甲乙國ノ國籍ヲ併有ス此ノ如ク血統主義ト血統主義トノ間ニ國籍ノ衝突ハ必ス起リ得ヘキモノニシテ從來ノ學者ハ此點ヲ看過スルモノ多シ

第二 生後ノ事實ニ因ル國籍ノ衝突

(甲) 歸化ニ因ル國籍ノ衝突 今日一般ノ文明國ニ於テハ歸化ノ制度ヲ設ケタルモノ始ト之ナシ土耳其スラモ近年歸化法ヲ制定シテ外國人ニ國籍ノ取得ヲ許スニ至レリ是ニ於テ本國ノ國籍ヲ脫セサル者カ外國ニ歸化スルコト頗ル多ク隨テ國籍ノ衝突ヲ惹起シタルコト甚タ多シ就中北米合衆國及ヒ獨逸間ニ此原因ニ依リテ國際紛議ヲ生シタルコト屢之アリ

獨逸法律ニ依レハ獨逸人カ外國ノ國籍ヲ取得スルモ之カ爲メニ獨逸ノ國籍ヲ

失ハス隨テ獨逸人ニシテ外國ニ歸化シタル者殊ニ北米合衆國ニ歸化セタル者ハ二國ノ國籍ヲ併有スルニ至レリ而シテ近來獨逸人ハ國內ニ於ケル經濟上ノ關係ノ爲メニ北米合衆國ニ移住シ同國ニ歸化スル者頗ル多シ是ヲ以テ獨逸及ヒ合衆國トノ間ニ國籍衝突ノ紛爭ヲ生シタルコト頗ル多シ(殊ニ兵役事件ニ付キ然レトモ「バンクロフト」條約ニ於テ此紛議ノ原因ヲ永ク沈滅スルコトヲ得タリ蓋シ「バンクロフト」タル者ハ獨逸ニ派遣セラレタル北米合衆國ノ公使ノ名ニシテ此人カ條約ノ締結ニ力ヲ盡シタルカ爲メ遂ニ「バンクロフト」條約ノ名稱ヲ生スルニ至レリ今其條約ノ要領ヲ説明センニ獨逸人ニシテ北米合衆國ニ歸化シタル者ハ本國ノ法律上國籍ヲ喪失セサルモ北米合衆國ノ臣民ト看做スヘシト云フニ在リ即チ此條約ニ依リテ獨逸法律ノ精神ハ全ク沒了セラルルニ至レリ然レトモ右ハ單ニ獨逸北米合衆國間ノ條約ナルカ故ニ獨逸國ノ臣民カ北米合衆國以外ノ國ニ歸化シタルトキハ等シク國籍ノ衝突ヲ起スニ至ルヘシ右ニ違ヘタル如ク「バンクロフト」條約ハ獨逸國籍法ノ規定ヲ無効ナラシメタルカ故ニ之ヲ非難スル者漸漸多キヲ加フルニ至リ殊ニ獨逸ノ兵役ヲ免脱センカ

爲メニ北米合衆國ニ歸化スル者滋増加セ「バンクロフト」條約ハ宛モ兵役忌避ノ方法ヲ設ケタルヤノ感アリ是ニ於テ獨逸法學者中獨逸ノ兵役ヲ終ラサル獨逸人ニシテ本國ニ歸化シタル者偶然獨逸ニ來リタルトキハ之ヲ外國人トシテ觀スヘシトノ論ヲ主張スル者アリ此論ハ獨逸ニ行ハレタリシカ千八百八十九年佛國民法改正前ニ於テハ同國ニ實際ニ行ハレタリ日本ノ國籍法ハ國籍ノ衝突ヲ豫防スルノ精神ナルニモ拘ラス兵役ノ點ニ付テハ獨逸ノ前例ニモ倣ハス斷然國籍ノ衝突ヲ甘シタリ即チ國籍法第二十四條第一項ニ曰ク「滿十七年以上ノ男子ハ前五條ノ規定ニ拘ラス既ニ陸海軍ノ現役ニ服シタルトキ又ハ之ニ服スル義務ナキトキニ非サレハ日本ノ國籍ヲ失ハス」ト伊太利民法第十二條佛國民法第十七條ノ如キモ亦然リ又佛國民法ニ依レハ現役ヲ終ラサル佛國人民ハ政府ノ許可ヲ得ルニアラサレハ佛國ノ國籍ヲ失ハス此ノ如ク兵役ノ一點ニ付キ國籍ノ衝突ヲ甘スル例尠カラサルカ故ニ此衝突ニ基因スル國際爭議ノ發生モ亦隨テ頻繁ナラサルヲ得ス

土耳其ニ於テハ千八百六十九年以來政府ノ許可ヲ得ルニアラサレハ外國ノ國

籍ヲ取得スル能ハサルニ至レリ然ルニ政府ノ許可ヲ得シテ希臘ノ國籍ヲ取得スル者多キカ故ニ希臘土耳其間ニ於テ國籍衝突ニ基因スル紛議ヲ生シ其局千八百七十五年南國間ニ新條約ヲ締結シ漸ク國籍ノ衝突ヲ防クコトヲ得タリ歸化人ノ妻及ヒ未成年ノ子ハ夫又ハ父母ト共ニ當然歸化國ノ國籍ヲ取得スル例尠カラス然ルニ歸化人ノ舊本國ニ於テ歸化人ノ妻及ヒ未成年ノ子ノ國籍喪失ヲ認メサル例モ亦尠シトセス是ニ於テカ歸化人ノ妻及ヒ未成年ノ子ハ二國以上ノ國籍ヲ併有スル結果ヲ生スヘシ

抑モ今日ニ於テハ歸化ニ付キ國籍ノ統一ヲ圖ル例多シ然レトモ其主義ハ苛酷ニ失スルノ嫌アルニ依リ種種ノ方法ヲ設ケ此弊害ヲ除去セントスルモノアリ匈牙利ブルガリヤ「コルンビヤ」「ウエチジュラ」等ノ諸國ニ於テハ當然妻及ヒ未成年ノ子ハ歸化人タル夫又ハ父母ノ國籍ヲ取得セシムル方法ヲ設クルモ瑞西ノ如キハ歸化人ノ妻及ヒ未成年ノ子ニハ從來ノ國籍ヲ保有スルコトヲ許セリ日本國籍法ハ歸化ハノ妻ト其未成年ノ子トノ間ニ區別ヲ設ケ妻ニハ從來ノ國籍ヲ保有スルコトヲ許スモ未成年ノ子ニハ之ヲ許サスシテ當然日本人タラ

校外生規則摘要

- 一 講義録ハ毎月二回發行シ滿一ケ年ヲ以テ卒業トス
- 一 講義録ハ之ヲ三部ニ分ツ其發行日左ノ如シ
 - 第一部 毎月 五日 二十日
 - 第二部 毎月 十日 廿五日
 - 第三部 毎月 十五日 三十日
- 一 月謝金ハ全部壹圓、各一部四十錢トス但シ入學金ヲ要セス
- 一 校外生ハ本校講義會、討論會ニ出席傍聴スルコト及ヒ本校ノ出版ニ係ル書籍雜誌ハ特別ノ廉價ヲ以テ購求スルコトヲ得
- 一 校外生全部卒業證書ヲ有スル者ハ試験ノ上校內生三年級ニ編入セツルコトヲ得
- 一 校外生ハ講義録中ノ疑義ニ付キ質問スルコトヲ得
- 一 但シ返信用郵券ヲ封入スルコトヲ要ス
- 一 三ケ月以上月謝不納ノ者ハ退學者ト看做ス
- 一 月謝ハ東京飯田町郵便支局拂和佛法律學校會計係トスヘシ

明治廿二年十二月九日内務省許可

明治三十三年四月廿一日印刷

明治三十三年四月廿五日發行

編輯者

小田 幹治郎

東京市四谷區四谷仲町三丁目六番地

印刷者

金子 鐵五郎

東京市芝區四ノ久保町舟町十一番地

印刷所

金子 活版所

東京市總町區富士見町六丁目十六番地

發行所

司法省
指定

和佛法律學校

(電話番町百七十四番)